3月12日 土曜日 11日發行
昭和30年西暦1955年
發行所 内外タイムス社
東京都中央区銀座3の5
電話（代表）京橋（56）8646
（直通）販売（〃）0437広告（〃）3995
編集局 港区芝田村町5の6
電話代表芝（43）1163番
東京振替貯金口座 170071番

内外タイムス
THE NAIGAI TIMES

第3033號（昭和24年6月27日第三種郵便物認可・昭和24年5月27日國鉄特別扱承認第232號）
（中華郵政台字第637號執照登記爲第2類新聞紙類・内政内類証報僑内台警字第0136號）

あすの暦 3月12日・土 旧2月18日
月齢 17.5
日出 前 5.58
日入 後 5.45
月出 後 9.25
月入 前 7.19
満潮 前 6.45 後 7.35
干潮 前 0.50 後 1.15
（中潮）

天気予報
今晩 北東の風曇、北部ときどき雨
明日 北一時南東の風朝晩曇、日中ときどき雨

4版

政府・国会対策に腐心
自由党への呼びかけ活発化
鳩山・緒方会談提唱へ
推進役は岸幹事長
鳩山・吉田会談も

政府与党は特別国会開会を目前にして国会乗切り対策に腐心している、衆院勢力百八十五名の民主党は国会乗切りのためには自由党の協力が絶対に必要であるとし、去る九日の岸・石井会談をキッカケとして保守両党協調のふんいきを盛上げることに全力を注ぐこととなり、近く鳩山首相と緒方自由党総裁の会談を自由党に呼びかける可能性が濃くなってきた、そしてその時期は緒方総裁が九州から帰る十一日以後、特別国会召集日の十八日前とみられている、鳩山首相はこの会談で今後の政局収拾策につき自由党の協力を要請する模様である、この会談は最初は一応儀礼的なものとなろうが、この両党首会談を契機に将来の保守提携の糸口をつかみ、場合によっては鳩山、吉田会談も考慮している模様で、民主党はこれら会談を通じて保守大合同を前進させようとしている


上 鳩山首相
中 緒方自由党総裁
下 吉田前首相

民主党の国会乗切り策については目下さまざまな線で具体的に動き出しているが、岸、松村、三木の党三役の間で自由党に対する呼びかけは緒方総裁、石井幹事長、大野総務会長ら党主流派と池田、佐藤、保利、福永氏ら吉田派に対する両面作戦にその重点を置いているようである

さきの岸・大野会談、岸・石井会談もその一環であるが、議長、副議長および常任委員長をめぐる民主党提案に対する自由党回答（十二日）は極めて注目される、この回答如何によっては鳩山・緒方会談は意外に早く実現する公算が強いが、一部には緒方総裁が選挙中その演説で鳩山首相の個人攻撃をやった結果、鳩山首相の感情を極度に悪くしているので、その実現方を危ぶむ向きもあるが、岸幹事長は選挙中の演説はこの際不問に付するとの考え方から積極的に鳩山首相に緒方総裁を訪問するよう進言する模様である

また吉田派に対しては同派が自由党実力派であり、首班指名にも第一党党首たる鳩山氏に授察することをアッサリ決めているので、鳩山首相は次第に吉田前首相に対し好感を持ち初めているようだ、そこで緒方総裁との会談に引続き、吉田前首相との会談もあり得るとの観測が有力化しているわけだが、これらの会談を通じ民、自両党の連携は次第に深まり、保守合同への糸口となることが期待される、しかし自由党の一部には健全野党の建前から「民主党とは政治責任を分担しない」との意向があるので、民自両党の完全な提携にはなお迂余曲折があるものとみられる

常任委員長の割當
両社、民主黨に申入れ

左社の勝間田総務局長、八百板国対委員長、右社の山本青婦局長、河野国対委員長、山下栄二の各氏は十一日午前十一時衆院議長サロンで民主党の岸幹事長、石田両副幹事長、石田国対委員長と会見、正副議長、常任委員長を保守党だけで独占することに反対することを申入れ、常任委員長は従来通り各派の勢力に比例した割当を行うよう要求した、両社代表はこれに引続き自由党の石井幹事長にも同様申入れた

正副議長にも両社統一候補
左社国対委決定

左派社会党は十一日午前十時から院内で国会対策委員会を開き、つぎの諸点を決めた、また最近福島、埼玉、茨城などの各地で地方財政の赤字を補うという名目で教員を馘首する傾向が出ているため、安藤文相、西田自治庁長官に対し厳重抗議することを決め、同日午後横路節男、野原覚、矢島三義、高田なほ子の諸氏がこの旨を申入れた

一、両社統一首班候補に鈴木委員長を推すことを再確認する
一、衆院正副議長については右社と協議して独自の統一候補をたてる
一、常任委員長など院内役員は積極的にこれを確保する
一、両社院内単一交渉団体についてその成立を期するため右社との話し合いを積極的に促進する

閣議 暫定予算 一括提出決定

政府は十一日の閣議で四、五月分の暫定予算案の取扱いについて協議した結果、国会運営を考慮して四、五月一本として提出することとし、新内閣成立直後提出することに決めた、一万田蔵相はこの日の閣議で「地方財政の空白をなくするため暫定予算は分割上程が望ましいが、現実問題として国会運営ができなければやむを得ない」と発言、一括提出に決ったものである

日本の申入れ歓迎
ス長官演説 東南ア開発への協力

訪日中のスタッセン米対外活動本部長官は十一日、東京の帝国ホテルで行われた日米協会主催の昼食会で挨拶し「米国は東南アジア経済開発計画に積極的に協力するとの日本の申入れを歓迎する」と述べた

演説要旨 一、私は今回ア大統領の要請でタイ、インド、パキスタン、セイロン、フィリピン、韓国、日本などアジア七ヵ国を訪問したが、その結果これら各国とも独自の問題と利害を抱えていることをあらためて認識した 主要輸出物資の価格低落や市場難が問題の国もあれば、原料不足や機械部品の不足に悩んでいる国もある、また輸送手段の不十分のことや、倉庫不足の国もあろう、しかし私が特に強い印象を受けたのは基本的な問題や利害が各国とも共通であるだけでなく、米国民にとっても関心事であるということであった

一、最も重要なことは各国とも生活条件の向上に対する意欲と決意がみなぎっていたことである、全般的にいって食糧需要は満たされており衣料、住宅、さらに従来ぜいたく品と見られていたような物資の供給に関心がむけられている

一、各国では程度の差こそあれ直面している問題は失業問題である、国民生産における失業の損失は重大で過小評価さるべきではない、これらの人間の苦悩や失意がやがて社会不安を招き、さらに危険な思想に身を傾けさせるようになることが一層心配である

一、私はまた財政金融の安定を達成し、これを維持しようとする固い決意に感銘をうけた、どの国でも経済開発促進計画が慎重に準備されているので、私はこれらの計画がやがて成功を収めるだろうと確信している、その顕著な例は日本が過去一年になし遂げた成果である

一、私が訪問した諸国は通商拡大を希望している、ア大統領は地域別の経済開発促進を議会に提案しようとしているが、地域的経済開発推進のためには統治国すべての力がそれぞれ生産の能率化、貿易の増大、生活水準引上げなどのために相互に協力することが必要である

一、私が強調したいことはこの協力は各国間の措置だけに限られるべきではなく、もっと広い意味で民間および政府の資本が必要に応じて互いに他を補うように、しかも主として民間の創意に基づいて利用されるよう共に力を合せることである


記者団に語るスタッセン長官

経済事情好転に感銘
記者会見

スタッセン長官は引続き午前十一時から丸ノ内のプレスクラブで内外記者団と会見、つぎのように述べた

一、今度の日本訪問で嬉しかったのは日本の経済事情がよくなっていることだった、特需の減少にもかかわらず国際収支は約一億ドルの黒字であり外貨準備はほぼ過去の最高水準にもどっているということである このような成果は私にとって特別に感銘深いものである

一、日本は工業の発達がおくれている他のアジア自由諸国の経済的発展に対しますます多くの貢献をなし得るようになった

一、このような貢献、たとえば投資は、直ちに報酬を期待するわけにはゆかないので最初は大きな負担になるだろうが、一定の時がたてば貿易量の大幅増大をもたらすだろう

一、私は重光外相との会談でアジア開発経済計画に関する日本政府の見解をのべた覚書を手渡された、私はこれらの意見は日本政府がアジア開発計画に参画する願望を示したものと喜んでいる

一、私は日本政府がいろいろの分野で自由諸国の一致した目標を達成するための効果的な手段について引続き進んで見解を表明するよう希望する


ご自慢の脚線美
映画ではアパッチ・インデアンのようにあばれ馬をのりこなし、はては組んずほぐれつの大乱闘をするハリウッドのお嬢様女優アン・ロビンソン嬢、こんどウオーター・フロントを相手に目出度く主役がふりあてられた、彼女の★髪の色は激しい気性を示めす赤毛、下手に彼女を口説こうものならヒヂテツならぬあっさり蹴飛されることは必定！【写真は見事な脚線美を見せるロビンソン嬢】（UP＝サン）

金門、馬祖防衛可能
スタンプ司令官言明

蒋介石国府総統と会談ののち台湾水域を中心に極東方面の軍事情勢を視察したスタンプ米太平洋艦隊司令長官は十一日午前八時半から東京丸ノ内の記者クラブで内外記者団と会見、「中共がさらに侵略行動に出れば米軍はこれを阻止する能力と用意がある」と次のように語った

一、中共はどこへでも不意に出撃する可能性はあるが、私はいま中共が極東で大規模な戦争を欲しているとは思わない、中共は二千の航空機と三百五十万の陸軍をもっているが、この艦艇はソ連製の潜水艦とせいぜい駆逐艦程度以下の舟艇しかない

一、金門、馬祖両島が中共軍に侵略された場合、米軍が防衛に参加するかどうかはアイゼンハワー大統領が言明している以外にはいえないが、不時の事態に対処する備えをもっている太平洋艦隊は命令が来ればこれを実行するだけである、われわれは今戦闘準備はしていないが、数時間乃至数日間で準備できる態勢

一、国府軍は金門、馬祖両島を独力で防衛できるとは思えないが米軍は原爆を使用しないでも両島を防衛できる

グロムイコ次官 英外相と会談

【ロンドン十日発UP＝共同】ロンドンの国連五ヵ国軍縮小委員会に出席のため訪英中のグロムイコ・ソ連外務次官は十日英外務省を訪れ、イーデン外相と会見した

粋く辞事
植物記



「しいのみ学園」というのがある。まさにこれはコドモの学校にちがいないと、ひとりでおかしくなってしまった。古川柳に

みつかつて椎の實ほどにして逃げる

というのがある。この句の場合は無論大人のことだろうが、見つけられた驚きと怖さのためコドモのもののように、小さくしぼんだという強調的表現だと解すべきだろう。それともまだコドモ時代から、脱けきらない当節流行の「十代の…」男の子の場合をいったのか、とにかくあれを「椎の実」とはおもしろい形容である。このような植物学的形容はおそらく東洋、とくに日本と中国の独擅場で、西洋にはあまり無いのではあるまいか。

木のようにさせて娘は聲をあげ

これも古川柳だが、中国なら「鉄のように」というところを、木にしたところに日本的感覚がある。鉄では常識的で味に乏しい。木のようにで、はじめて真にせまるものがある。

玉ぐきを娘にきかれ母こまり

この「玉ぐき」の「くき」も植物学上？の名詞である。ただしこの言葉は、中国から来た「茎」の字の和訓である。くきといえば芋の茎から造る「ヒゴズイキ」というのもこの「植物記」から落してはなるまい。

うき名立つ時もあったに干大根

これはまたナンともわびしい話になるが、「椎の実」のなれのはて、「木のように」なる力も失せて、やがて人生の終着駅にも近いという老残の一物を「干大根」とは、日本ならではの名表現である。



抱いた子を蓋にして出るざくろ口

これは古川柳の傑作として有名だが、「ざくろ口」は昔の銭湯の出口をこう呼んだ。そのワケはよく判らないが、ザクロという果物の持つそこはかとなきエロチシズムがよく利いていて、なんともいえぬ味がある。ザクロは中国では子孫繁栄（多子という）の縁喜の象徴としてめでたい物とされている。またザクロの花は女の腰から下を包む紅い衣服（実際はズボンだが、そういってはツヤケシになる）の形容に用いる。「石榴裙」である「石榴裙下に拝倒す」というのはフェミニストの極端なヤツのことである。

中年や深くみのれる夜の桃（三鬼）

この有名な現代俳句は、桃太郎説話でも知られるところの「女」の象徴としての桃の実をもって来て、中年の性欲の衰えをうたったものといわれる。桃と同じような着眼から二股大根がよく話題にのぼるが、この方は少々俗っぽいから名句も見あたらないようだ。同じく男の「マツタケ」も俗っぽくて文学にはならぬ。

アンズ（杏）の花は日本には少ないし、あまり問題にされないが中国では非常にエロチックなものとされている。そこへいくと牡丹の花は美人の形容でも、むしろプラトニックで肉体的な意味は乏しいが、有名な春本に「杏花天」というのがある。中国人はこの題名だけでもすぐにピンとくるのだ。またベッド・シーンにおける女の眼の形容を「杏眼」という。さすがに文字の国である。

ブドウは日本ではその方の意味はないようだが、中国ではブドウ棚は風流なものになっている。その起りは例の「金瓶梅」で、主人公西門慶が、ヒロイン潘金蓮とブドウ棚の下でたわむれる場面が全篇のクライマックスになっている。四十八手も試みつくした美食のあげく、女の両脚をブドウの蔓に結えつけてアクロバチックで行なうというのだから凄い

話は変って、

オミナエシなまめきたてる前よりも
うしろめでたきフジバカマかな

という衆道をよんだ江戸狂歌がある。ともに秋の七草をつかったところがミソだが、女郎花は平凡として、フジバカマをもってオカマを象徴した江戸文士の奇才はまことに驚嘆のほかはない。中国ではオカマを「後庭花」と雅称する。もちろんこれは歌曲の名なのだが…。

石原巌徹

東京株式仲値
□新株落△配当落（11日前場終値）

銘柄	円	銘柄	円	銘柄	円	銘柄	円
特定銘柄		昭電工	89	旭化成	297	カボン	54
東海上	293	日本曹	71	山陽パ	90	三井物	146
郵船	62	旭電化	78	日本パ	88	第一物	99
新三菱	91	三菱造	75	国策パ	90	白木屋	210
日清紡	265	三井造	106	東北パ	109	高島屋	80
味の素	273	三菱重	65	大東紡	90	日活	82
三越	273	石川重	95	商船	54	松竹	193
平和不	383	椿工	130	三井船	52	東宝	—
三井金	109	東洋ベ	117	飯野海	47	大映	171
三菱鉱	94	日立造	43	西武	359	日本粉	122
日鉱	83	浦賀	46	藤田鉱	203	日清粉	150
住友金	105	日平	31	東京ガ	82	日本ビ	153
三菱鉱	47	古河電	72	東電	458	朝日ビ	172
古河鉱	77	日立	77	日銀	—	キリン	198
同和鉱	113	東芝	70	東銀	81	宝酒造	89
住友炭	67	三菱電	100	三井銀	—	台糖	197
三井山	66	小松	69	富士銀	—	明糖	108
北海炭	62	日本光	166	日証金	102	甜菜糖	98
東邦亜	68	キヤノ	143	安田火	119	野田	358
帝石	67	東京光	—	大正海	99	森永	262
日石	91	東洋紡	137	住友海	111	明菓	155
昭和石	85	鐘紡	133	千代田	85	日水産	72
東燃	135	富士紡	108	鋼管	72	昭和産	79
三菱石	94	大日紡	83	日製鋼	74	東洋醸	91
大協石	183	日東紡	65	八幡	62	合同酒	91
日東化	70	片倉	37	富士鉄	60	三楽	78
日産化	68	呉羽紡	83	神戸鋼	67	大阪糖	140
三菱化	83	東邦レ	100	日特鋼	137	王子紙	193
三井化	102	帝麻	66	日軽金	183	十条紙	210
昭和鑛	103	中織	56	日金工	57	本州紙	90
東合成	91	帝人	120	日セメ	130	三菱紙	—
信越化	74	東洋レ	158	磐城セ	268	北越紙	53
東高圧	105	三菱レ	121	小野田	82	三井不	795
		倉レ	75	横浜ゴ	190	三菱地	498
				旭硝子	138	三井倉	98
				富士写	117	渋沢倉	120
				小西六	105	東洋埠	205

市況 気乗り薄閑散

整理はほゞ一巡したが情勢の模様ながめに人気は引き立たず売物薄から全般は気乗り薄閑散のコゲ付商状を示している、特定株は動意薄のうちにマバラ買いが散見されて一円方小確りの物が多く、雑株は三井グループの化学株や興亜石油など二、三材料含み株が物色されて二、四円方小高い程度で全く見送られ、五円以上の値動きは皆無という典型的な無風相場であった

▽高い株＝三井不、三洲合成四円
▽安い株＝東洋工四円

内外抄

南樺太、千島の返還も交渉したいと首相語る。アテにせずに待つとしよう。

◇

中共が台風などに関し通報してくれるそうな。それ以上は国際情勢の風向き次第によるらしい。

◇

健保の大赤字から保険料の値上げ話。早くも「社会保障」の歌を忘れかけたカナリヤ。

◇

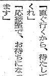
教科書検定制度の再検討を命じた安藤文相「さきが短いので何やかや手をつけておくよ」

◇

広川夫人が選挙違反で捕えられた。狸が夫人に化けていたんじゃなかろうか。



學校の火事寄付金が気にかゝり　品川 蝠牛
老いらくの戀を邪魔する孫が出來　市川 小泉實
裏口は廣く表は狭き門　大田 古疊
女房の周期數えて床につき　城東 法界坊



ないがいかわね 吉田林司 選

うたがいが解けて嬉しい春の夜　台東 谷清子
庭の梅咲いたと故郷の母の筆　葛飾 福田こうじ
【賞】長生きをしたく養老院を出る　川崎 小宮せいじ

小幡前知事当選
福井参院補選

【福井発】参院福井地方区補選は十日に引続き十一日午前開票を行った結果、前福井知事小幡氏（無・新・保守系）の当選が決定した

当 [illegible] 小幡治和 無新 保守系
[illegible] 宝鏡晃 民新

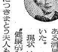
政治家の女房
ジグザグコース

〝女賢しうて牛を売り損う〟ような悪妻は百年の不作である。今度の総選挙でもこれを裏書きするような例があっていろいろの悲喜劇を演じた。

汚職の筆頭と目され、当選してもドン尻だろうといわれていた池田勇人氏が、いざフタをあけてみると最高点だった これは賢夫人のほまれ高い満枝夫人の〝得票〟だといわれている。夫人の声望は勇人氏をしのぎ、夫人が立候補したら最高点の記録をつくるだろうといわれるほどである。またこれと全然正反対なのが民主党の宮沢胤勇氏夫人だといわれる。宮沢氏は選挙となると苦戦するが、これは夫人の所為だと酷評する人もいる。宮沢夫人を知らない地区または夫人が歩いていない地区の票は予想外によかったというのだからナカせる。

やきもち、悋気は誰でも持っているが、これの一番強い地方は四国の松山地方だという。郷土の誇りとして意気揚々乗込んだ武知郵政相を落選させたのは何よりの証拠と人の悋気を気に病む人も多い。

また夫人がとびぬけて美人のため損している政治家もいる。芦田均氏の夫人スミさんは有名な美人だが「あんないいのを持ちやがって」というやきもちりんきが票を大分他へそらしているという。こんど落選した右社の加藤勘十氏の場合も参院議員のシズエ夫人が有名なのでどうも影がうすく票が集らぬ一因だといい、彼女も一種の〝悪妻〟だとけなす人も多い。鳩山薫子夫人がこんどの選挙で影の形に添うように首相と行を共にしたが、これも鳩山人気に大きくプラスしているようだ。政治家といえば汚職、乱闘、蓄妾は普通のことのように見られている今日、首相がどこへいくにも奥さん同伴—実は首相の健康的理由から連れて歩いているのだが—で羨しい、鳩山さんはフェミニストらしいというのでワーッと婦人連が沸いたのだとある消息通は語っていた。



現状 はたしかに〝健康的〟理由から首相の身辺につきまとう夫人も、習い性となり、やがて政治に口ばしをいれ〝閨房政治〟に陥らぬとも限らぬ。すでにそのきざしはあると断言する政治評論家もいるが賢夫人薫子さんのクントウを受けた鳩山夫妻のことだから、これは杞憂であって欲しい。（蛙）

【写真は鳩山薫子夫人】

浅草の鬼（105）
浜本浩 作
栗林正幸 画

断崖（八）

「主任さんに取り次いだかい？」

部長は、安斎刑事の名刺を手にして、受付嬢に尋ねた。

「はい」

「主任さんが、私に会えといったんだね？」

「はい」

有名なジャズ歌手の笠置シヅ子と、そっくりな受付嬢は、至って口数が少ない。

「直ぐ行くから、待たして置いてくれ」

「応接室で、お待ちになって居ります」

「よろしい」

受付嬢が立ち去ると、部長は居合せた制服の巡査に、耳打ちして、外勤部屋を出て行った。耳打ちされた巡査は読みかけた新聞を、新田に勧めて、

「部長は、すぐ戻って来るそうです」といった。

部長が応接室へはいっていくと安斎刑事は立ちあがって、

「お手数をかけまして、済みませんでした」と、打ちとけた笑顔を見せた。

部長は、椅子に腰を下ろし、

「御苦労さま。迎えに来られたんですね」と、あまり良い顔をしなかった。

「はァ。会社の者が来る筈でしたが、少々事情がありましてネ、自分が参りました。さっそくですが—」

部長はそこで、安斎の言葉を抑えるようにいった。

「ところが、新田君を、二、三日拝借できませんか？」

「なぜですか？」

安斎刑事は、その挨拶を予期していた様子であった。

「つまり、自殺の恐れがあるから」

という、御署からの連絡で、さっそく現場へ、張り込みに行ったんですが」

部長は、現場で目撃した状況をかい摘んで説明した。

「そうしますと、運転手はズラかったんですか？」

安斎刑事は、力抜けした態であった。たぶん、黒眼鏡の原田が目的で、乗り込んで来たのかも知れぬ。

「しかし、当署では多賀駅付近に潜伏しているものと見て、捜査して居ります。伊東線の各駅に手配しましたが、今のところ乗車した形跡はありませんからネ」

だから、殺人容疑で手配した運転手を発見するまで、新田の身柄を保留したいというのだ。



「そうしますと、容疑者の氏名などもご存じですネ？」

「新田から、聞きましたよ」

部長は、したり顔に答えた。

「それなんです」

安斎刑事は、何事か決意したらしく、穏やかな笑顔を見せて、乗り出した。

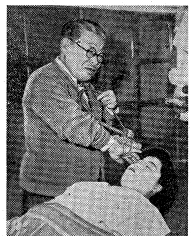
「実は昨夜十二時頃でした」

管内の有力者、黒島伝八から、使用人の新田が自殺の目的で錦ヶ浦に向った。八時半頃、熱海まで約束でタクシーに乗るところを組の者が見たから、間もなく現場に到着する筈。至急手配を頼むという電話があった。取りあえず地許の熱海署へ手配したところ、今暁になり、熱海からの電話で、新田の乗った自動車は、タクシーでなく、黒島組の自家用車であったことが知れた。

「そうなりますと、私の方で昨年来捜査中の、ある事件に絡んで来ますので、実は署長の許可を得て私が貰いに来たわけです」と、安斎刑事は腹を割った。

造化の神に挑戦する男

[illegible]と聞けば、昔なつかしむ人も多い、その美顔術の看板を掲げ、女でござれ、男でござれ、顔という字通り半世紀を"顔で食ってきた男"北原十三男氏は、三つのドクトル称号を持ち、化粧品会社という大先生である、おまけに一日三合の酒は欠かしたこともなく、いつも酒の匂いをプンプンさせる、今年七十六歳、その人生はまことに洒々落々として、神田旅籠町の侘び住居に漂う"寝しの無縫ぶり、そこで、酔いどれ天使そのまゝの人生観から、顔の変遷五十年史をうかがってみた



【写真は美顔術に精を出す北原先生】

変り種美顔師 ―が語る― 顔とセックス

酒ビンと共寝の日常

粋な人生"のん平菩薩"

[illegible]かると頬の下を赤くする、人違いでこれほど違うのだ、目の玉の飛び出た日本の女が、くぼんだ外人女のマネをして、アイシャドウなど塗りたくって、コッケイではないか…と先生は苦笑する

川水で消えるシミ

―外人の方が厚い「ツラの皮」―

間違いない"色黒ければ……"

日本人のツラの皮は、外人に比べてグンと薄いのだそうである、日本人の表皮は〇・二ミリ、外人のそれは〇・四ミリ弱、だから、化粧の成分が違わなければならない、生れたばかりの子供に、お尻に青や赤のアザがあるのが多いが、これは東洋人だけの特徴であって、心配することはない、色素のあるところは、色素によってすべてを強くする、カイロの豪族は土人娘を二号、三号に持って喜んでいる、色黒ければ何とやら…というのはたしかに間違いないンであると、先生は大笑した

さて、化粧での悩みは顔のシミである、この顔のシミは、川の水で洗い続けると消えるものであるということを、先生は持論としている、京美人、秋田美人、新潟美人、みな雪どけの川水で美しくなっているユエンである、またそばかすというヤツ、あれは尿の色素が浮いてくるもんであるという学説を明治四十四年ウィーンで発表した、当時は相当反論もあったらしい

いきなり裾をパッ！

舌を下と感違いした娘

アチラはオチョボ口流行

[illegible]色に還ろうとしている、ヨーロッパの映画をみても、口紅は日本のようにオチョボ口に塗っている、あれが、自然の美しさなんだね」

「私は医者だから、美顔術も、医学的原理から考える、ニキビ一つでもヒフの面から、消化器の面から診断する、こんな話があったな、毛の薄い娘が母親に連れられて来たんだよ、私の前でオドオドしているんだ、毛の薄い悩みだなとこちらは察したが、年ごろの娘の前でそうズバリとは聞けない、ふと見ると、額にニキビが出ているんだ、は、胃が悪いなと思った、で、話のキッカケに"舌を出してご覧"といったんだが、その娘、とたんに驚いた顔をして『先生にはお隠し出来ません』というなり、パッと下をまくッて見せた、驚いたのはこッちだ、舌と下の大間違いなんだね、ハッハッ…」

美容院のお弟子さんが寝泊りするらしい一室のトビラに枯れた筆で曰く―「北原美人ホテル 別ピン以外の入室お断り」どこまでも、粋に人生を楽しむのん平先生である

紅燈手帖 ―芸者心得―

[illegible]れなくなってからするもの[illegible]

○…芸者を永くしていると、布団を敷かないでお座敷に座[illegible]いるものだから、座りダコが出来る。座りダコというやつは色消しで、ゲンメツである。なるべく、工夫をして座りダコをつくらないようにすること。



甚だ色消しの座りダコ

年増のベタ寄りも迷惑

○…新橋の芸者など、自分のいまいるお座敷でつとめようとする気がない。これは若い妓に限らず、いい年をした芸者が、自分達の知っているかぎりの、偉い(?)客の話ばかりする。それは、いくら威張ってみても、しょせん貧乏人の出だから、その反動で、そういうことになるのだろう

が、まあ、いま自分を招んで貰っているお客の話題に合わすのが当然。自分の座敷を外にしてぺちゃくちゃ他の話ばかりするのは、感じが悪い。もし、したければ、玉代を返して、他でやること。

○…いい年増の芸者が、そのお座敷やお客が気に入ると、ぺったり傍にくっついて離れないが、これは困りもの。お客は、いい姐さんだとか何とかいっても、それはお世辞で、本当は、若い妓に傍にきてもらいたいのだが、それに気のつかぬのはめいわく。時々席は変るべし。

○…お座敷へきて、すぐ一服自分で煙草をつける妓がある。煙草を好きなのであろうが、自分の家へかえったのではない。ちょっと、その座敷の空気になじむまでは我慢して「煙草いただいてもいい?」ぐらいはいうぐらいの気持で、それから喫ってもらいたいもの。

春浅く白き乳房のほくろかな　（蝶）

【写真は芸者のおしゃべり】

日本版ラスプーチン物語

第一話　犬姫様と観相師 ❷

野高一作

人間の手というものは、敏感で官能的なものである。まして男と女がじっと握りあっていると、そこに妙な雰囲気がかもしだされる。かくてさらに数分が経過したとき、H侯爵家の姉娘たるM子爵夫人は、大観堂によって一種の暗示にかけられていた。さすがは曲者大観堂である。のっけから高圧的に、物々しく出て、気位の高い華族夫人の心理を骨抜きにしたのだ。なにしろ手を握っているので、そこから女の心理の波がよみとれる。

「これでよろしいでしょう！」

と大観堂は、やおら重々しくいった。何がよろしいのか、わからぬが、この場の妖しい雰囲気の中にいて「よろしい」と宣言されれば、よろしいような気分になるものかもしれない。一説によれば、すでにこのとき大観堂とM子爵夫人のあいだには特別な関係が生じたといわれる。女は生来下淫を好むし、そうでなくても神秘的な暗示によってわが身を犠牲の祭壇に供するような、或はそのことによってわが身が浄化されるような錯覚に陥いるからである。

M子爵夫人はそれ以来すっかり大観堂の信者になった。何かにつけて相談である。こうなると大観堂は、もはやH侯爵家の内政に参与したも同然であった。M子爵家に嫁いだとはいえ、姉娘は依然として実家H侯爵家に対する発言権をもっている。それに華族夫人としては珍しい活動家でもあった。戦時中、犬毛のホームスパンというものを提唱したのもこの女性である。

犬といえば、H侯爵家の人々はみんな一種の犬気違いで、美貌の妹娘F子は日本犬の収集で有名であった。むろん、こういう点に関しても、大観堂たるもののヌカリはない。彼はぬけぬけと、



「私も犬が好きでしてな」

などといった。妹娘のF子はのちに咽喉結核で死んだが、このF子とともに大観堂は、日本中犬さがし旅行をしている。もはや大観堂は、一切合財H侯爵家の総支配人格として、自由に奔放に振舞うことができた。

ただ、大観堂の手に負えぬ女性がたった一人だけいた。これは家庭をかえりみぬH侯爵家の当主I氏の夫人で、彼女だけはいい加減な神通力をたよりにしなかった。が、大観堂の陰謀はあくまで計画的で、終戦直後、この夫人をそゝのかし、ついにあるアメリカ軍人と姦通させることに成功したのである。そうして、手なづけた女中上りの女を、当主I氏の正妻に居直らせた。姦通した前夫人はアメリカの恋人と海を渡ってしまったし、これで大観堂は完全にH侯爵家のうまい汁を一人じめできるかと思えたが、最近になって俄然一つの紛争が生じた。というのは、長い放蕩の末当主が急死すると、遺産の分配を要求する権利主張者がどっと押し寄せたのである。大観堂はこの点だけヌカっていた。それにしても、一介の観相家が、伝統と家柄を誇る御大家の内部を乱させたことは確かであった。

（第一話終り）

モダン歳時記

噫尼港事件

大正九年三月十二日、極東シベリアのニコライエフスクに尼港事件と呼ばれた六[illegible]虐殺が行われた。同年一月コルチャックが失脚し、この地方は過激派の跳梁に任され、無頼の徒は續々と党をなして暴威を振っていた。当時尼港には我が陸軍守備隊百四十名、海軍電信兵四十二名、要塞守備兵若干と居留民自警団があったが、一月下旬トリャピーチンを首領とする過激派は大挙してチヌイラフ砲台を奪い、二月には電信隊を襲い、漸く月末に領事館と協定を結んだが、三月十一日にはこれを無視して守備隊の武装解除を迫り、ここに十二日午前一時を期して彼我衝突するの状況に立ち至った。寡兵の我が方は全員戦死、木造の領事館は火を発し、石田領事は二人の幼児と夫人をピストルで射殺して三宅少佐と差違えて自刃したが、その後、陸軍守備隊も武装を解除されながら全員虐殺されてしまい、その数すべて七百名といわれている。男子のみではなく、女子もすべて彼らの暴威を避けることができず、この集団暴行の犠牲となって殉じた。これはわがシベリア出兵への報復だったのかも知れないが、怖ろしい悪夢だったのである。（鮭）

世界風流譚 …（フィリピン）…

ミンダナオ島に住む百姓のフライは十二、三の頃から娘の尻を追いまわすことを覚えてこの方、一晩として女なしでは済まされぬ豪の者となってしまい、今年廿五というのに早や女房を十人も取りかえる始末。夜の勤めが辛くて女の方から飛び出してしまうのはいわずもがなで、これが村中の評判となってもう嫁にきてがありません。それでもこのままフライを独りで置いたことには、村の人妻や娘の身が危いというわけで、村長が村の長老と相談し遠くの村のティアスという廿八になる牛のように頑丈な後家を十一人目の嫁にあてがいました。さて結婚一ヵ月目、様子如何にと村長がやってきました。「どうじゃフライや満足だんべ」よく見ると、どうも精気のない顔色「病気でもしてんのかや」「村長さん、今度のもダメだで」「やっぱしダメか。お前に向く嫁はいねえのかな」「向くも向かねえもねえだ。今度はおらの方から離縁して貰らうべ。おらァ、ハァ、十二人目の亭主だとよ」

あすの運勢 ―三月十二日―

高島象山

▲一月生―何事も多少の苦労はあるも素志の貫徹に努力し目的叶也
▲二月生―気運やや安定して物事平易に進み平穏あり取引貸借注意
▲三月生―物事自由を失し他動的災害を蒙ることあり交際外交注意
▲四月生―慢心を戒め慎重なる態度を以て進めば進展し栄達する也
▲五月生―禍い転じて福となる総て辛抱強く熱心に努力すれば無事
▲六月生―何事も小田原評議で日が暮る義で理想でなく現実に進め
▲七月生―運気朗る旺盛なれば思い切つて活動し利達栄昌あるなり
▲八月生―疑心暗鬼を生じ自ら事に迷い失策を招き易い慎重にせよ
▲九月生―何事も自由自在に進展向上の機あり開業把業結婚は大吉
▲十月生―物事に他人の[illegible]を受け或は家庭の内外に不和を生ずる
▲十一月生―[illegible]業を守るものは無事気迷うものは失態を生じ損失有
▲十二月生―万事に技倆を発揮して活動すれば目的有利に進展する

ラジオとテレビ　11日（金）

時	★NHK第1★ 590KC	★NHK第2★ 690KC	★ラジオ東京★ 950KC	★日本文化★ 1130KC	★ニッポン★ 1310KC
6	00 ❶子供のシンブン❷日本お話の旅「天草」 25 物語「オテナの塔」	00 医学の時間 小川常二 30 この頃の科学ニュースから 解説・岸本康	10 劇「こんちは横丁」 25 私が買いましょう 55 スポーツ・タイム	00 劇「すずらん太郎」 15 神月春光とコロニアン 30 テイノ・ロツシの歌	00 劇「ポツポちゃん」 20 時代劇「銀蛇の窟」 35 歌謡百貨店
7	00 ニュース・天気予報 15 録音ニュース 30 黄金のいす「柴田睦陸」ショウ 柴田喜代子ほか	00 名曲鑑賞 組曲「すずめ蜂」ウイリアムズ作曲 30 歴史の窓から「鯨と開国」愛知大教授 玉城肇	10 録音ニュース 20 唄ごよみ 唄市丸ほか 30 エンゼル・クイズ 司会木下華声 水の江滝子	00 録音ニュース 10 歌・津村謙 春日八郎 30 歌合戦 司会柳亭痴楽 坂西静男 橋本タクミ	00 ラジオ夕刊 20 連続劇「今日もまた」 30 13の奏者による嬉遊曲 深井史朗作曲ほか
8	00 演芸独演会 浪花節「まぶたの母」三門博 40 日本の町 指宿市（鹿児島県）地元連中	05 政治質問会「民主党の政策をきく」福田赳夫 池田正之輔	00 オルケスタ・テイピカ東京 歌・藤沢嵐子ほか 30 歌のカーニバル 歌・三浦洸一 菅原ツヅ子	00 歌謡学校 デイツク・ミネ 藤村一平ほか 30 のど自慢二つの歌 司会柴田早苗 三好一義他	00 親子演芸会 落語「子別れ」㊤小円馬㊦円馬 30 劇「江戸三国志」徳大寺伸 須藤健 鶴実千代
9	05 ニュース解説館野守男 15 劇「母百万」渡辺富美子 楠義孝 毛利菊枝 吉田正文 津島道子ほか	00 ラジオリサイタル❶独唱 聖譚曲「聖パウロ」より❷弦楽四重奏曲イ短調 シユーベルト作曲	10 狐侍一代記 榎本健一 恩田清二郎 浜田百合子 35 トニー劇場「お泥棒日記」トニー谷 桂小金治	00 歌謡曲 浅野靖子 田端義夫 今村隆ほか 30 落語❶花見小僧 小柳枝 ❷隅田川 痴楽	00 浪曲玉手箱「母の舞扇」（1）天津羽衣 30 十郎・雁玉てんやわんや 芦乃家雁玉 林田十郎
10	15 おかめ八目 林房雄 今日出海 永井竜男 40 音楽の地図「南米」	00 ❶初級世界史 青山吉信❷解析 池原止戈夫 45 気象通報	05 きょうのニュースから 15 劇「愛の花束」森雅之 30 ミユジツクアラベスク	00 和文英訳 JBハリス 30 解析（Ⅱ）戸田清	00 劇「裸一貫」滝沢修他 35 商売繁昌 山田光男他 50 競馬随想 池島信平
11	20 ❶明日の話題❷随筆「ペンペン草」中村浩	00 流行と競走の女性洋品 15 新聞論調	10 安楽椅子 司会末広恭雄 火野葦平 清水崑	00 ベルリオーズの「イタリアのハロルド」ほか	10 孫文逝いて三十年 40 近眼の話 細川ちか子

テレビ　★NHKテレビ★ 6・10 音楽のアトリエ 6・40 デンマーク国王誕生日 7・15 マジソンスクエアガーデン 7・30 映画「化繊」 7・45 ジエスチユア 8・15 素人ラジオ探偵局

★日本テレビ★ 6・00 どんぐり日記 6・15 新しい写真講座 6・30 歌のアルバム 6・40 落語「七の字」金馬 7・30 シルエツト・クイズ 8・00 映画「嵐の青春」沼田曜一ほか

あすの番組

NHK第1	NHK第2	ラジオ東京	日本文化	ニッポン
7・45 朝の訪問米山高麗子	8・00 この頃の野菜作り	8・20 ラジオ・スケツチ	8・25 劇「ミナモトさん」	7・35 放送論壇 三宅晴輝
8・05 名演奏家の時間	8・30 大作曲家の時間	9・45 奥様への十五分	9・30 療養文芸◇歌謡曲	8・10 劇「おとこ大学」
8・30 私の商法福島繁太郎	9・00 きょうの学校放送	10・10 名作「春の海図」	10・40 劇「君ひとすじに」	8・45 お好み歌謡曲
9・15 主婦の相談室	9・45 音楽だより	11・05 連続小説「青果の市」	11・35 連続劇「東京の人」	9・00 劇「サザエさん」
9・45 青いノート 木崎豊	10・30 音楽の旅 細谷一郎	12・15 漫談 牧野周一	12・00 落語 右喜松・三平	9・45 リード集 桑原瑛子
10・05 けさの話題 三神茂	11・30 世界の動き藤瀬五郎	12・30 原孝太郎と六重奏団	1・15 歌・市丸 二葉ほか	10・00 きんぴら先生青春記
11・05 科学童話 津田弥生	12・30 立体音楽堂	1・05 浪曲ドラマ◇講談	2・00 座談会 「嫁と姑」	11・00 連続劇「胡椒息子」
11・15 朗読「白き処女地」	1・00 都市対抗野球実況	2・20 歌のオリンピア	3・00 ものまねコンクール	12・00 日本意外史「桐一葉」

浪人街道 (93)

木村荘十　野口昂明画

宿敵 四

啓之助は、若侍達に取りまかれて、しまったと思ったが、どうすることも出来なかった。

自分一人ならば、どうでもして斬りぬけるが、今度は、美代吉をつれている。

とっさに気がついたのは、あの化物の殿様、河内之介に息女があると聞いたことだ。

「各々、抜身のままで無礼であろう。こちらは、河内之介様御息女であるぞ」

「なに、衣代さまが…そのような話は承らぬが…」

「しのびじゃ。不審と思えば、帯刀どのに伺ってまいれ」

「はっ」

「序に帯刀に言伝を頼む」

美代吉はまた大胆に、啓之助を真似て云った。

「お父上をそそのかして、何時も何時もかような剣戟沙汰、衣代は父上にも申上げて来たが、今後もかようなこと続けるなら、伯父上に申上げて、帯刀を国へ呼び戻すように計らいますと」

「はは」

「さ、参りましょう」

美代吉は、啓之助を促して歩き出したが、相手は、啓之助の前に立ち塞って、

「お待ち下さい。念のために、御名前を承って置きたいが…」

「拙者は岡本春之助」



あまり無造作に姓名を名乗られて、二の句がつげず、そのまま二人を通そうとした。

その時だ。誰が発見したのか、離室の様子が知れたらしく、慌ただしく鐘の鳴る音がして、

「曲者は、まだ邸内におるぞ、女を連れているが、油断するな」

と叫んだ者があった。

「おのれ、偽ったな」

黒装束の美代吉をおさえようとした時、啓之助の白刃は再び血を吸った。

一人が斬られると、邸の侍達は、わっと四方へ一度は散ったが、忽ち白刃の襖をつくって近づいて来る。

「曲者を見つけたぞ」

「出会え、築山だ」

すかさず、呼び笛を鳴らすものもあって、屋敷の内は俄に色めき渡り、啓之助と美代吉を取囲んだ。

「美代吉、まずいことになったな」

「化物に身を汚される位なら、斬られて死んだ方がよっぽどましです」

「うむ。云ったな。その意気だ。背後へ回る奴があったら声をかけろ…斬って斬って斬りまくり、こうなったら死なば諸共だ」

「啓之助さん、私ァうれしい」

「よし、離れるな、来い」

啓之助は、美代吉をかばって、塀際まで退くと、

「美代吉、その塀の下にしゃがんでいるのだ。身共の背後から離れるな」

そういうと、呼び笛で集って来た相手を見廻して、

「さ、来い」

と正眼に構えた。

「ゆけ、切先を揃えて一緒に飛込め、啓之助とて鬼神ではないぞ。恐れるな」

その声は帯刀だった。

「うふふ、これは面白い、帯刀、今度は打ちもらすなよ」

そういったのは、例のしゃがれた、河内之介の声であった。

お遊び天國

東京のよるとひる、ぶらりと歩いて楽しめる店、憩える店、お色気やら遊びやら探して歩いた『お遊び天國』が即ちこれ。

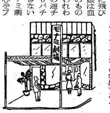
音楽の殿堂　神田「ブルースター」



原孝太郎と東京六重奏団や南里文雄とホットペッパースのタンゴなど華やかな専属一流楽団の演奏で話題を呼んでいる神田駅東口前のミュージックホール「ブルースター」では今度コーヒーの値段をあたり前の喫茶店並みの70円に値下げした。十一時から五時までのサービスタイムがそれで、アベックや昼休みのサラリーマン諸氏に、憩いの場所として気軽く利用してもらおうというのが狙い。北欧の宮殿を想わせるような豪華な室内調度は、音響や気分の効果からいっても満点で、ありきたりのジャズ喫茶などでは味わえないぜいたくな雰囲気だ。コーヒーの味は勿論一級、まさにミュージックホールとして都内随一を誇っていい店だろう。

パチンコマニアのために全店を開放　今川橋「モナミ劇場」

いい悪いは別として、今日大衆娯楽の王座は何といってもパチンコだが、そのパチンコの中でもマニアにとって忘れられないのはあの連チャン式の醍醐味だ。後から後から機械的に飛び出す玉の行方を追って、眼は血走り、体は炎え、この世のものとも思えぬ恍惚の世界にわれわれを引ずってくれる。その連チャンファンの名残りはつきないが、ここ神田今川橋のモナミ劇場ではその名残り惜しい心をファンと共に爆発させようと赤字覚悟で連チャン機を全部開放、マニア、プロ大歓迎と銘打っての大サービスを初めた。機械全部が"オール新開店"のようなものだから、出るワ出るワ、こんなに出して大丈夫かネ。小首をかしげたのはかくいう筆者、パチンコマニアの実感である。



餃子の本家　新宿「餃子会館」



ラーメンに取って代って戦後餃子の普及は物凄いばかりだが、餃子を食べるなら一度は訪れなければならない店、それがギョーザの本家として名高い新宿都電の終点近く、ジューキミシンの横を入った処にある「餃子会館」だ。従業員即ち経営者で全部が大陸の学校出というだけあって、味は本家の名に恥じぬ逸品、焼、水、むしといずれもうまく、場所柄ネオン帰る頃ともなればアベックや映画帰りの家族連れでにぎわっている。店も清潔で小ざっぱりとして、珍らしい大陸の切手やスタンプ、紙幣などが無造作に飾りつけてあるのもなかなかいい。

お安い命の洗濯　川崎駅前「ブルーバード」

惚れて通ったアルサロ娘の眼の前で、ビールにアドルムを入れてあおったら、その純情にほだされたアルサロ娘の瞳が愛の光りに輝いたとか、輝やかなかったとか。その後日譚はとも角として、かく程左様に麗わしき乙女の集えるアルサロが川崎駅前の「ブルーバード」である。何しろ三百五十坪という六フロアに二百名の美女、つまれるのを今か今かと胸ふるわせて待つ乙女ばかりだから、浦島太郎でなくても青春の血はわけもなく炎えたぎって二、三日はあっという間。といっても、懐を全部はたいてその上オーバーを担保に、という惨めな格好はここで遊ぶ限り絶対なし。ビール一本二百円、三本飲んでサービス料を含めても七百八十円ですむから、お安い命の洗濯だ。なお今月一杯は、桜まつりに引続く特別ショウとして、舞踊、奇術、腹話術などもりたくさんな演し物が用意されているという。

銘酒の酒蔵　純粋な日本趣味の店　神田駅西口前「三福」

同じ呑んべエでも、アプレのそれではない。灘の生一本を傾けながら、粋な和服姿の姐さんたちを横目でチラリ、金時計の魅力でつろうという純粋アバン?の店である。といっても、決してお値段が高級というのではない。高級なのは灘、秋田は勿論、日本中の銘柄品をズラリと並べた豊富な日本酒にある。恐らくこれだけの酒を揃えた店は東京広しといえどもそうあるものではない。所は神田、駅西口前の日立造船本社のトナリ純日本酒場「三福」である。としえ、時子、あや、加代、葉子といずれがあやめかきつばた、廿名に余る美女を揃えたのも圧巻。しかもお値段はビール一八〇円、一級一一〇円ノーチップというからあながち課長、重役氏でなくても十分楽しめるぜいたくな雰囲気である。二階は気の利いた小部屋、商談、小宴会は勿論だが、場合によっては想う娘の口説きの手始めなどにはもってこい。日本酒党なら一度はくぐらなければならぬ店の一つである。

三福

アベックむし風呂　巣鴨「ピースホテル」

「お前先に入っておいで」「イャーン、あなたから」入浴を前にしてこんな睦言も時には乙なものだろうが「じゃ一緒にどう?」とばかり並んで寝ころべる「アベックむしろ風呂」を設備した宿がある。豊島区巣鴨の「ピースホテル」がそれ。地下鉄新大塚駅から氷川改正通りの方へ出てちょっと左に折れた所、みるからに近代人好みのシャレた宿だ。「むし風呂」の元祖を名乗るだけあって都内唯一という自慢の設備でマッサージもOKというからトルコ風呂などよりずっと気が利いている。お値段はアベックでお休み三百円、お泊り七百円という大衆料金だ。別館はちょっとした宴会などに好適で水だき、やき鳥の味は格別。二人づれや、仲のよい同志の軽い慰安会などにうってつけの宿といっていい。

好みに應ずる女性群　新宿ヒカリ座筋向い「処女林」

新宿で豪華なキャバレー気分を安く味わいたいと思ったら「処女林」がいい。ノーチップ・クーポン制のキャバレーというのはこの店だけ。武蔵野館横通り、ヒカリ座の向い側にある。飲みもの、料理いずれも二五〇円均一で、それ以外は一定のサービス料だけだ。春にさきがけて満目の桜花を飾ってあるが、ミラーボールの妖しい光りが映えて美しいなかを、四―五十人もいる女性が気持よくサービスしてくれるのもタノシイ。バンドに合せモンロー女史のヒップに手を廻してステップをふめば、ホカホカと男の中心温まることは請合いだ。

シャンソンとタンゴの　純喫茶「モナリザ」

渋谷東宝裏桜小路で馴染み深いバー「モナリザ」が昼十一時から八時迄、純喫茶店として新装開店した。セミ・クラシックの落ついた雰囲気に、ほのかにともるランプの灯は、赤々と燃えるペチカと共に、自ら夢幻境に誘い、渋谷で最も静かな憩いの場所である。入口からすぐ上れる広いスペースの二階は特に若い人々に好評。静かに流れるシャンソンの調べを聞き乍ら一杯のコーヒーは、芳醇でコクがあり、コーヒー通や常連の多い事が、うなづける。なお夜八時からは従来通りの家庭的で安心して飲めるバーとなり優雅な雰囲気でビール二百円、洋酒一五〇円という、庶民的プライスの明朗現金システムなので、サラリーマンの巣となっており、渋谷を足場とする方々に是非共奨めたい店である。

日本版ラスプーチン物語

第一話 犬姫様と観相師 ②

野 高 一 作

人間の手というものは、敏感で官能的なものである。まして男と女がじっと握りあっていると、そこに妙な雰囲気がかもしだされる。かくてさらに数分が経過したとき、H侯爵家の姉娘たるM子爵夫人は、大観堂によって一種の暗示にかけられていた。さすがは曲者大観堂である。のっけから高圧的に、物々しく出て、気位の高い華族夫人の心理を骨抜きにしたのだ。なにしろ手を握っているので、そこから女の心理の波がよみとれる。「これでよろしいでしょう！」と大観堂は、やおら重々しくいった。何がよろしいのか、わからぬが、この場の妖しい雰囲気の中にいて「よろしい」と宣言されれば、よろしいような気分になるものかもしれない。―一説によれば、すでにこのとき大観堂とM子爵夫人のあいだには特別な関係が生じたといわれる。女は生来下淫を好むし、そうでなくても神秘的な暗示によってわが身を犠牲の祭壇に供するような、或はそのことによってわが身が浄化されるような錯覚に陥いるからである。

M子爵夫人はそれ以来すっかり大観堂の信者になった。何かにつけて相談であるこうなると大観堂は、もはやH侯爵家の内政に参与したも同然であった。M子爵家に嫁いだとはいえ、姉娘は依然として実家H侯爵家に対する発言権をもっている。それに華族夫人としては珍しい活動家でもあった。戦時中、犬毛のホームスパンというものを提唱したのもこの女性である。



犬といえば、H侯爵家の人々はみんな一種の犬気違いで、美貌の妹娘F子は日本犬の収集で有名であった。むろん、こういう点に関しても、大観堂たるものヌカリはない。彼はぬけぬけと、「私も犬が好きでしてな」などといった。妹娘のF子はのちに咽喉結核で死んだが、このF子とともに大観堂は、日本中犬さがし旅行をしている。もはや大観堂は、一切合財H侯爵家の総支配人格として、自由に奔放に振舞うことができた。

ただ、大観堂の手に負えぬ女性がたった一人だけいた。これは家庭をかえりみぬH侯爵家の当主I氏の夫人で、彼女だけはいい加減な神通力をたよりにしなかった。が、大観堂の陰謀はあくまで計画的で、終戦直後、この夫人をそそのかし、ついにあるアメリカ軍人と姦通させることに成功したのである。そうして、手なづけた女中上りの女を、当主I氏の正妻に居直らせた。姦通した前夫人はアメリカの恋人と海を渡ってしまったし、これで大観堂は完全にH侯爵家のうまい汁を一人じめできるかと思えたが、最近になって俄然一つの紛争が生じた。というのは、長い放蕩の末当主が急死すると、遺産の分配を要求する権利主張者がどっと押し寄せたのである。大観堂はこの点だけヌカっていた。それにしても、一介の観相家が、伝統と家柄を誇る御六家の内部を乱させたことは確かであった。

（第一話終り）

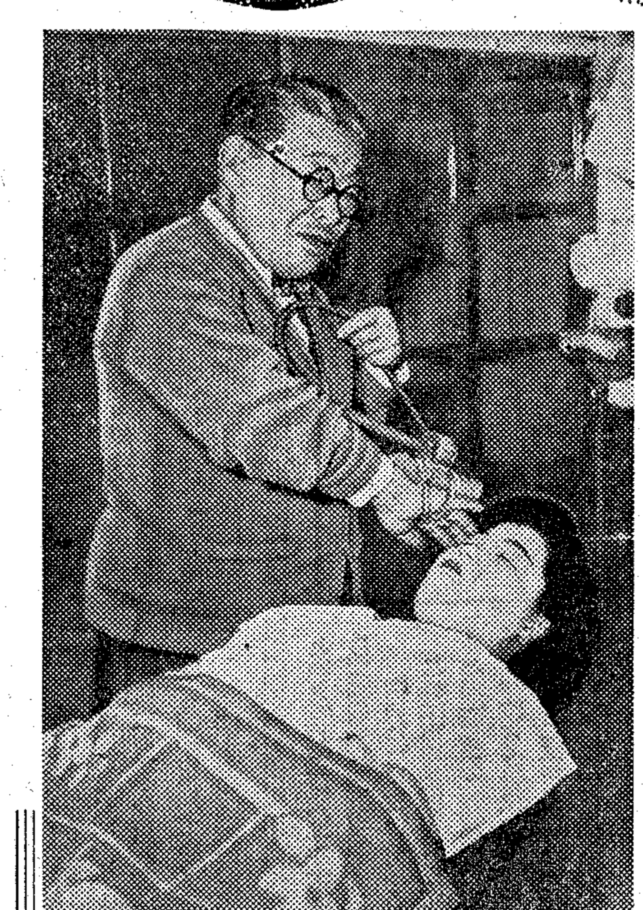
顔が語る

変り種美顔師

とセックス

酒ビンと共寝の日常

粋な人生〝のん平菩薩〟



【写真は美顔術に精を出す北原先生】

造化の神に挑戦する男

美容ばやりのこのごろ、美顔術と聞けば、昔なつかしむ人も多い、その美顔術の看板を掲げ、女でござれ男でござれ、顔という顔をいじくり回して五十年、文字通り半世紀を〝顔で食ってきた男〟北原十三男氏は、三つのドクトル称号を持ち、化粧品会社を経営し、刀剣好きで花を愛すという大先生である、おまけに一日三合の酒は欠かしたことなく、いつも酒の匂いをプンプンさせている〝のん平先生〟でもある、今年七十六歳、その人生はまことに洒々落々として、神田旅籠町の侘び住居に漂う〝暮しの在り方〟もまた奇想天外な天衣無縫ぶり、そこで、酔いどれ天使そのまゝの人生観から、顔の変遷五十年史をうかがってみた

客の立て込む表の美容院―ならぬ美顔院を通り抜けて、裏の納屋から二階に通されると、とたんに玩具箱を引っくり返したような光景が部屋一杯展開される。草花の鉢、薬ビン、食器、印刷機、活字ケース、原稿用紙に書籍…いやもう目のやり場に困る始末、部屋の隅の寝台には天井から二本の綱がぶら下がっていた、いかに酔っていて

「昔の歌舞伎俳優はジカに白粉を塗ったものだ、だから鉛毒で苦しんだね、伊井蓉峰もあれでやられている、大阪で公演中倒れたときも私が駈けつけて生命をとり止めたが、私を菩薩として仰ぐなんて書いた色紙をよこした、のん平菩薩だね…先年は島田正吾がやってきた、片目を爛れ上らせてね、その場で治し

が、あれは日本女性特有のしゅう恥の色であるそうだ、白人の娘が一種の違いでこれほど違うのだ、目

[illegible]

紅燈手帖

◇芸者心得◇

○…芸者が、特に場末の芸者が、小さなダイヤの指はめ（指輪）等をしているが、貧乏臭くお粗末で見ておれない。やるなら、すくなくとも一カラット以上の、ぱんとし

けられなくなってからするものだ。

○…芸者を永くしていると、座布団を敷かないでお座敷に座る。なるべく、工夫をしてダコをつくらないようにと。

○…新橋の芸者などのいまいるお座敷でつうとする気がない。いい妓に限らず、



甚だ色消しの座りダコ

年増のベタ寄りも迷惑

[illegible]

【写真は芸者のおしゃべり】

（蝶）

いきなり裾をパッ！

アチラはオチョボ口流行

[illegible]

明治からの顔の変遷、つまり化粧の移り変りは―というと「昔に戻っているンだね、即ち自然なハダの色に還ろうとしている、ヨーロッパの映画をみても、口紅は日本のように オチョボ口に 塗っている、あれが、自然の美しさなんだね」

「私は医者だから、美顔術も、

の面から診断する、こんな話があったな、毛の薄い娘が母親に連れられて 来たん だよ、私の前でオドオドしているんだ、毛の薄い悩みだなとこちらは察したが、年ごろの娘の前でそうズ

は、胃が悪いなと思った、で、話のキッカケに〝舌を出してご覧〟といったんだが、その娘、とたんに驚いた顔をして『先生にはお隠し出来ません』というなり、パッと下をまくって見せた、

美容院のお弟子さんが寝泊りするらしい一室のトビラに枯れた筆で曰く―「北原美人ホテル 別ピン以外の入室お断り」どこまでも、粋に人生を楽しむのん平先生である

川水で消えるシミ

外人の方が厚い「ツラの皮」

間違いない〝色黒ければ……〟

の玉の飛び出た日本の女が、くぼんだ外人女のマネをして、アイシャドウなど塗りたくって、コッケイではないか…と先生は苦笑する

日本人のツラの皮は、外人に比べてグンと薄いのだそうである、日本人の表皮は〇・二ミリ、外人のそれば〇・四ミリ弱、だから、化粧の成分が違わなければならないのであるということを、先生は持論

[illegible]

モダン歳く記

噫尼港事件

大正九年三月十二日、極東シベリアのニコライエフスクに尼港事件と呼ばれた大虐殺が行われた。同年一月、過激派は大挙してチヌイラフ砲台を奪い、二月には電信隊を襲い、漸く月末に領事館と協定を結んだが、三月十一日にはこれを無視して守備隊の武装解除を迫り、ここに十二日午前一時を期して彼我衝突するの状況に立ち至った。寡兵の我が方は全員戦死、木造の領事館は火を発し、石田領事は二人の幼児と夫人をピストルで射殺して三宅少佐と差違えて自刃したが、その後、陸軍守備隊も武装を解除されながら全員虐殺されてしまい、その数すべて七百名といわれている。男子のみではなく、女子もすべて彼らの暴威を避けることができず、この集団暴行の犠牲となって殉じた。これはわがシベリア出兵への報復だったのかも知れないが、怖ろしい悪夢だったのである。

して暴威を振っていた。当時尼港には我が陸軍守備隊百四十名、海軍電信兵四十名、要塞守備兵若干と居留民自警団があったが、一月下旬トリヤピーチンを首領とする過激派の……に、この地方は……任され、無頼の徒は……

（鮭）

蛮流吉男譚

（フィリピン）

相談し遠くの村のティアスという廿八になる牛のように頑丈な後家を十一人目の嫁にあてがい……

[illegible]

あすの運勢　高島象山

―三月十二日―

▲一月生―何事も多少の苦労はあるも素志の貫徹に努力し目的叶也
▲二月生―気運やや安定して物事平易に進み平穏あり取引貸借注意
▲三月生―物事自由を失し他動的災害を蒙ることあり交際外交注意
▲四月生―慢心を戒め慎重なる態度を以て進めば進展し繁栄する也
▲五月生―禍い転じて福となる総て辛抱強く熱心に努力すれば無事
▲六月生―何事も小田原評議で日が暮る義で理想でなく現実に進め
▲七月生―運気隆る旺盛なれば思い切って活動し利達発昌あるなり
▲八月生―疑心暗鬼を生じ自ら事に迷い失望を招き易い慎重にせよ
▲九月生―何事も自由自在に進展向上の義あり開業把業結婚は大吉
▲十月生―物事に他人の悪評を受け或は家庭の内外に不和を生ずる
▲十一月生―家業を守るものは無事気迷うものは失態を生じ損失有
▲十二月生―万事に技術を発揮して活動すれば目的有利に進展する

ラジオとテレビ　11日（金）

時	★NHK第1★ 590KC	★NHK第2★ 690KC	★ラジオ東京★ 950KC	★日本文化★ 1130KC	★ニッポン★ 1310KC
6	00 ❶子供のシンブン❷日本お話の旅「天草」 25 物語「オテナの塔」	00 医学の時間 小川常二 30 この頃の科学ニュースから 解説・岸本康	10 劇「こんちは横丁」 25 私が買いましょう 55 スポーツ・タイム	00 劇「すずらん太郎」 15 神月春光とコロニアン 30 テイノ・ロッシの歌	00 劇「ポコポちゃん」 20 時代劇「銀蛇の窟」 35 歌謡百貨店
7	00 ニュース・天気予報 15 録音ニュース 30 黄金のいす「柴田睦陸」ショウ 柴田喜代子ほか	00 名曲鑑賞 組曲「すずめ蜂」ウイリアムズ作曲 30 歴史の窓から「鯨と開国」愛知大教授 玉城肇	00 録音ニュース 20 唄ごよみ 唄市丸ほか 30 エンゼル・クイズ 司会木下華声 水の江滝子	00 録音ニュース 10 歌・津村謙 春日八郎 30 歌合戦 司会柳亭痴楽 坂西静男 橋本タクミ	00 ラジオ夕刊 20 連続劇「今日もまた」 30 13の奏者による喜遊曲 深井史朗作曲ほか
8	00 演芸独演会 浪花節「まぶたの母」三門博 40 日本の町 指宿市（鹿児島県）地元連中	05 政治質問会「民主党の政策をきく」福田赳夫 池田正之輔	00 オルケスタ・テイピカ東京 歌・藤沢嵐子ほか 30 歌のカーニバル 歌・三浦洸一 菅原ツヅ子	00 歌謡学校 デイツク・ミネ 藤村一平ほか 30 のど自慢二つの歌 司会柴田早苗 三好一義他	00 親子演芸会 落語「子別れ」㊤小円馬㊦円馬 30 劇「江戸三国志」徳大寺伸 須藤健 鶴実千代
9	05 ニュース解説館野守男 15 劇「母百万」渡辺富美子 楠義孝 毛利菊枝 吉田正文 津島道子ほか	00 ラジオリサイタル❶独唱 聖譚曲「聖パウロ」より❷弦楽四重奏曲イ短調 シユーベルト作曲	10 狐侍一代記 榎本健一 恩田清二郎 浜田百合子 35 トニー劇場「お泥棒日記」トニー谷 桂小金治	00 歌謡曲 浅野靖子 田端義夫 今村隆ほか 30 落語❶花見小僧 小柳枝 ❷隅田川 痴楽	00 浪曲玉手箱「母の舞扇」（1）天津羽衣 30 十郎・雁玉てんやわんや 芦乃家雁玉 林田十郎
10	15 おかめ八目 林房雄 今日出海 永井竜男 40 音楽の地図「南米」	00 ❶初級世界史 青山吉信❷解析 池原止戈夫 45 気象通報	05 きようのニュースから 15 劇「愛の花束」森雅之 30 ミユジツクアラベスク	00 和文英訳 JBハリス 30 解析（Ⅱ）戸田清	00 劇「裸一貫」滝沢修他 35 商売繁昌 山田光男他 50 競馬随想 池島信平
11	20 ❶明日の話題❷随筆「ペンペン草」中村浩	00 流行と競走の女性洋品 15 新聞論調	10 安楽椅子 司会末広恭雄 火野葦平 清水崑	00 ベルリオーズの「イタリアのハロルド」ほか	10 孫文逝いて三十年 40 近眼の話 細川ちか子

テレビ　★NHKテレビ★ 6・10 音楽のアトリエ 6・40 デンマーク国王誕生日 7・15 マジソンスクエアガーデン 7・30 映画「化繊」 7・45 ジエスチユア 8・15 素人ラジオ探偵局　★日本テレビ★ 6・00 どんぐり日記 6・15 新しい写真講座 6・30 歌のアルバム 6・40 落語「七の字」金馬 7・30 シルエツト・クイズ 8・00 映画「嵐の青春」沼田曜一ほか

あすの番組

NHK第1	NHK第2	ラジオ東京	日本文化	ニッポン
7・45 朝の訪問米山高麗子 8・05 名演奏家の時間 8・30 私の商法福島繁太郎 9・15 主婦の相談室 9・45 青いノート 木崎豊 10・05 けさの話題 三神茂 11・05 科学童話 津田弥生 11・15 朗読「白き処女地」	8・00 この頃の野菜作り 8・30 大作曲家の時間 9・00 きようの学校放送 9・45 音楽だより 10・30 音楽の旅 細谷一郎 11・30 世界の動き藤瀬五郎 12・30 立体音楽堂 1・00 都市対抗野球実況	8・20 ラジオ・スケツチ 9・45 奥様への十五分 10・10 名作「春の海図」 11・05 連続小説「青果の市」 12・15 漫談 牧野周一 12・30 原孝太郎と六重奏団 1・05 浪曲ドラマ◇講談 2・20 歌のオリンピア	8・25 劇「ミナモトさん」 9・30 療養文芸◇歌謡曲 10・40 劇「君ひとすじに」 11・35 連続劇「東京の人」 12・00 落語 右喜松・三平 1・15 歌・市丸 二葉ほか 2・00 座談会「嫁と姑」 3・00 ものまねコンクール	7・35 放送論壇 三宅晴輝 8・10 劇「おとこ大学」 8・45 お好み歌謡曲 9・00 劇「サザエさん」 9・45 リード集 桑原瑛子 10・00 きんぴら先生青春記 11・00 連続劇「胡椒息子」 12・00 日本意外史「桐一葉」

浪人街道 (93)

木村荘十　野口昂明画

宿敵 四

啓之助は、若侍達に取りまかれて、しまったと思ったが、どうすることも出来なかった。

自分一人ならば、どうでもして斬りぬけるが、今度は、美代吉をつれている。

とっさに気がついたのは、あの化物の殿様、河内之介に息女があると聞いたことだ。

「各々、抜身のままで無礼であろう。こちらは、河内之介様御息女であるぞ」

「なに、衣代さまが……そのような話は承らぬが……」

「しのびじゃ。不審に伺ってまいれ」

「はっ」

「序に帯刀に言伝を頼む」

美代吉はまた大胆に、啓之助を真似て云った。

「お父上をそそのかして、何時もかような剣戟沙汰、衣代は父上にも申上げて来たが、今後もかようなこと続けるなら、伯父上に申上げて、帯刀を国へ呼び戻すように計らいますと」

「はは」

「さ、参りましょう」

美代吉は、啓之助を促して歩きだしたが、相手は、啓之助の前に立ち塞って、

「お待ち下さい。念のために、御名前を承って置きたいが……」

「拙者は岡本啓之助」



あまり無造作に姓名を名乗られて、二の句がつげず、そのまま二人を通そうとした。

その時だ。誰が発見したのか、離室の様子が知れたらしく、慌ただしく鐘の鳴る音がして、

「曲者は、まだ邸内におるぞ、女を連れているが、油断するな」

と叫んだ者があった。

「おのれ、偽ったな」

黒装束の美代吉をおさえようとした時、啓之助の白刃は再び血を吸った。

一人が斬られると、邸の侍達は、わっと四方へ一度は散ったが、忽ち白刃の襖をつくって近づいて来る。

「曲者を見つけたぞ」

「出会え、築山だ」

すかさず、呼び笛を鳴らすものもあって、屋敷の内は俄に色めき渡り、啓之助と美代吉を取囲んだ。

「美代吉、まずいことになったな」

「化物に身を汚される位なら、斬られて死んだ方がよっぽどましです」

「うむ。云ったな。その意気だ。背後へ回る奴があったら声をかけろ…斬って斬って斬りまくり、こうなったら死なば諸共だ」

「啓之助さん、私ァうれしい」

「よし、離れるな、来い」

啓之助は、美代吉をかばって、塀際まで退くと、

「美代吉、その塀の下にしゃがんでいるのだ。身共の背後から離れるな」

そういうと、呼び笛で集って来た相手を見廻して、

「さ、来い」

と正眼に構えた。

「ゆけ、切先を揃えて一緒に飛込め、啓之助とて鬼神ではないぞ。恐れるな」

その声は帯刀だった。

「うふふ、これは面白い、帯刀、今度は打ちもらすなよ」

そういったのは、例のしゃがれた、河内之介の声であった。

お遊び天国

東京のよるとひる、ぶらりと歩いて楽しめる店、憩える店、お色気やら遊びやら探して歩いた『お遊び天國』が即ちこれ。

音楽の殿堂

神田「ブルースター」



原孝太郎と東京六重奏団や南里文雄とホットペッパーズのタンゴなど華やかな専属一流楽団の演奏で話題を呼んでいる神田駅東口前のミュージックホール「ブルースター」では今度コーヒーの値段をあたり前の喫茶店並みの70円に値下げした。十一時から五時までのサービスタイムがそれで、アベックや昼休みのサラリーマン諸氏に、憩いの場所として気軽く利用してもらおうというのが狙い。北欧の宮殿を想わせるような豪華な室内調度は、音響や気分の効果からいっても満点で、ありきたりのジャズ喫茶などでは味わえないぜいたくな雰囲気だ。コーヒーの味は勿論一級、まさにミュージックホールとして都内随一を誇っていい店だろう。

パチンコマニアのために全店を開放

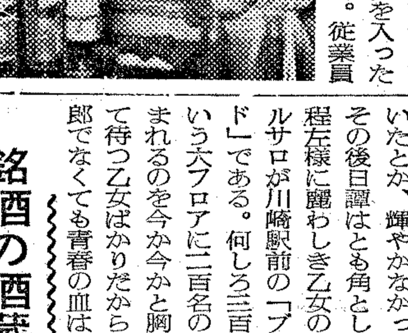
今川橋「モナミ劇場」

いい悪いは別として、今日大衆娯楽の王座は何といってもパチンコだが、そのパチンコの中でもマニアにとって忘れられないのはあの連チャン式の醍醐味だ。後から後から機械的に飛び出す玉の行方を追って、眼は血走り、体は炎え、この世のものとも思えぬ恍惚の世界にわれわれを引ずってくれる。その連チャン式もいよいよ今月限りパチンコファンの名残りはつきないが、ここ神田今川橋のモナミ劇場ではその名残り惜しい心をファンと共に爆発させようと赤字覚悟で連チャン機を全部開放、マニア、プロ大歓迎と銘打っての大サービスを初めた。機械全部が〝オール新開店〟のようなものだから、出るワ出るワ、こんなに出して大丈夫かネ。小首をかしげたのはかくいう筆者、パチンコマニアの実感である。



餃子の本家

新宿「餃子会館」



ラーメンに 取って代って 戦後餃子の普及は物凄いばかりだが、餃子を食べるなら一度は訪れなければならない店、それがギョーザの本家として名高い新宿都電の終点、ジューキミシンの横を入った処にある「餃子会館」だ。従業員即ち経営者で全部が大陸の学校出というだけあって、味は本家の名に恥じぬ逸品、焼、水、むしといずれもうまく、場所柄ネオン灯る頃ともなればアベックや映画帰りの家族連れでにぎわっている。店も清潔で小ざっぱりとして、珍らしい大陸の切手やスタンプ、紙幣などが無造作に飾りつけてあるのもなかなかいい。

お安い命の洗濯

川崎駅前「ブルーバード」

惚れて通ったアルサロ娘の眼の前で、ビールにアドルムを入れてあおったら、その純情にほだされたアルサロ娘の瞳が愛の光りに輝いたとか、輝やかなかったとか。その後日譚はとも角として、かく程左様に麗わしき乙女の集えるアルサロが川崎駅前の「ブルーバード」である。何しろ三百五十坪という大フロアに二百名の美女、つまれるのを今か今かと胸ふるわせて待つ乙女ばかりだから、浦島太郎でなくても青春の血はわけもなく炎えたぎって二、三日はあっという間。といっても、懐を全部はたいてその上オーバーを担保に、肩をすぼめてご帰宅などというみじめな格好はここで遊ぶ限り絶対なし。ビール一本二百円、三本飲んでサービス料を含めても七百八十円ですむから、お安い命の洗濯だ。なお今月一杯は、桜まつりに引続く特別ショウとして、舞踊、奇術、腹話術などもりだくさん山な演し物が用意されているという。

銘酒の酒蔵

純粋な日本趣味の店　神田駅西口前「三福」

同じ呑んべエでも、アプレのそれではない。灘の生一本を傾けながら、粋な和服姿の姐さんたちを横目でチラリ、金時計の魅力でつろうという純粋アバン？の店である。といっても、決してお値段が高級というのではない。高級なのは灘、秋田は勿論、日本中の銘柄品をズラリと並べた豊富な日本酒にある。恐らくこれだけの酒を揃えた店は東京広しといえどもそうあるものではない。所は神田、駅西口前の日立造船本社のトナリ純日本 酒場「三福」である。としえ、時子、あや、加代、葉子といずれがあやめかきつばた、廿名に余る美女を揃えたのも圧巻。しかもお値段はビール一八〇円、一級一一〇円ノーチップというからあながち課長、重役氏でなくても三度の縄のれんを二度にすれば、十分楽しめるぜいたくな雰囲気である。二階は気の利いた小部屋、商談、小宴会は勿論だが、場合によっては想う娘の口説きの手始めなどにはもってこい。日本酒党なら一度はくぐらなければならぬ店の一つである。

三福



アベックむし風呂

巣鴨「ピースホテル」

「お前先に入っておいで」「イャーン、あなたから」入浴を前にしてこんな睦言も時には乙なものだろうが「じゃ一緒にどう？」とばかり並んで寝ころべる「アベックむしろ風呂」を設備した宿がある。豊島区巣鴨の「ピースホテル」がそれ。地下鉄新大塚駅から氷川改正通りの方へ出てちょっと左に折れた所、みるからに近代人好みのシャレた宿だ。「むし風呂」の元祖を名乗るだけあって都内唯一という自慢の設備でマッサージもOKというからトルコ風呂などよりずっと気が利いている。お値段はアベックでお休み三百円、お泊り七百円という大衆料金だ。別館はちょっとした宴会などに好適で水だき、やき鳥の味は格別。二人づれや、仲のよい同志の軽い慰安会などにうってつけの宿といっていい。

好みに應ずる女性群

新宿ヒカリ座筋向い「処女林」

新宿で豪華なキャバレー気分を安く味わいたいと思ったら「処女林」がいい。ノーチップ・クーポン制のキャバレーというのはこの店だけ。武蔵野館横通り、ヒカリ座の向い側にある。飲みもの、料理いずれも一五〇円均一で、それ以外は一定のサービス料だけだ。春にさきがけて満目の桜花を飾ってあるが、ミラーボールの妖しい光りが映えて美しいなかを、四―五十人もいる女性が気持よくサービスしてくれるのもタノシイ。バンドに合せモンロー女史のヒップに手を廻してステップをふめば、ホカホカと男の中心温まることは請合いだ。

シャンソンとタンゴの「モナリザ」

純喫茶

渋谷東宝裏桜小路で馴染み深いバー「モナリザ」が昼十一時から八時迄、純喫茶店として新装開店した。セミ・クラシックの落ついた雰囲気に、ほのかにともるランプの灯は、赤々と燃えるペチカと共に、自ら夢幻境に誘い、渋谷で最も静かな憩いの場所である。入口からすぐ上れる広いスペースの二階は特に若い人々に好評。静かに流れるシャンソンの調べを聞き乍らの一杯のコーヒーは、芳醇でコクがあり、コーヒー通や常連の多い事が、うなづける。

なお夜八時からは従来通りの家庭的で安心して飲めるバーとなり優雅な雰囲気でビール二百円、洋酒一五〇円という、庶民的プライスの明朗現金システムなので、サラリーマンの巣となっており、渋谷を足場とする方々に是非共奨めたい店である。

シブヤのモナリザ

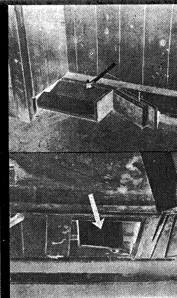
巧妙化す暗黒街のポン窟

三重扉やのぞき穴

祕術盡す警戒振り　捜査にも手を焼く

警視庁ヒロポン取締対策本部では、ヒロポン退治に乗り出してから五ヵ月間にヒロポン二百万本、同原末十一キロ（四百四十万本分）を押収、八千七百人を検挙したが、これまでの路上でのポンの取引から最近はもっぱらポン窟での取引に変り、手口も巧妙化してきた、同本部では今後ポン窟の摘発に主力をそそぐことになった、巧妙化している都内の暗黒街"ポン窟"の実態を探ってみる

【写真㊤は都内随一のポン窟、山谷の松の家飲食店内の"隠し引出し"（矢印）と㊦ドブ板を改造したポンの隠匿場所】



警視庁保安課の調べによると、都内のポン窟はざっと百数十ヵ所といわれ、主に新宿、渋谷、浅草、上野、池袋など各盛場や赤線、青線区域やドヤ街付近のアパート、飲食店などに巣食っていて、三業地内でポンの取引きをしているのもある、これらポン窟は、当局の目を逃れるために形態も、ポンの隠匿場所も巧妙化し、その内偵係官も手を焼いている

いまゝでに警視庁で摘発したポン窟からその実態をみると、彼らは取締りへの警戒には万全をつくし、外には見張りをつけ、鍵は必ず内側からかけて鍵穴か"のぞき窓"から訪れる人間を見きわめ、新顔は一切断るという厳重さ

草方面の場合は訪れた人間がスパイであるかないかをたしかめるためにその場でポンを射ち、決してアンプルのまま持ち帰さないという、また家の内部には二重、三重のドアがあり、第一のドアを突破して入っても、第二のドアでストップを食うといった仕組みで保官の目をくらまし、ヒロポン液もアンプルには入れず容器に入れて、警官らしい者が来た場合は証拠湮滅のため、液を直ちに捨てる掟になっている

こうした厳重な警戒のため、最近では会員制度が強化され、会員でなければポンが射てないことになっている、ポン窟の経営者は殆んどが日本人、経営者自身は表面に出ず、その妻が五人位の使用人の采配を揮っており、経営者はポンの仕入れに専任、二CC入り一本十円位で仕入れ、それを卅円から五十円位で売っている、客は不良とか赤線、青線の女給、夜の女達ばかりで、手入れをうけても検挙されるのは使用人だけで経営者は証拠がないためノホホンとしている、ポン中にポンを与える約束で新しく使用人に雇い入れて営業を続けるといった実情である

意外な隠し場　ドブ板にひき出し

ポンの補給方法は、早朝か深夜にポン窟に運び入れ、玄関前に自転車を置き、ハンドルの曲り具合でその日のポンの有無を客に連絡、ノックの数で仲間か否かを定めている、最近警視庁や各署で摘発した主なポン窟の例では、都内で最大のポン窟だといわれる台東区浅草山谷四の六飲食店"松の家"経営者李光雨(三八)は、終戦直後屋台の飲食店をやっていたが、ポンのブローカーをはじめて金をもうけ、今では店舗と八間もある二階建ての家を新築、飲食店の看板で、山谷一帯に勢力をはるポン窟となり、さる一月末李の妻あき(三四)ら五人の使用人が検挙された

また吉原特飲街内の「吉里」は非常ベルを設備して警戒しており、板橋の通称"浪人部屋"はドアが三重で"のぞき窓"から客を見きわめていた、去月十一日赤羽署に検挙された北区豊島町一の三〇菅沼方使用人村松清(三〇)ら四名は、昨年十二月王子三業地内の現在の家を借り、待合風に見せかけ

ポンの隠匿場所も屋根瓦とか、羽目板の間、炭俵の中、山谷の"松の家"のように部屋のなかに隠し引出しを作ったり、ドブ板の下に細工して隠匿していた

安井大吉氏雲がくれ

指名手配か　数百万圓ばらまく？



安井大吉氏

衆院選東京三区自由党落選候補安井大吉氏(六四)派の選挙違反を追及中の目黒署では、十日夜までに目黒区下目黒三の五六七目黒区議自由党目黒支部副支部長本田四郎(六〇)大田区蓮沼六四同支部情宣部長田丸鎮雄(四四)目黒区下目黒四の八〇一元自由党代議士同支部幹事今里準太郎(七八)川崎市台町七同候補の秘書芳村小次郎(四八)ら幹部運動員計九名を公選法違反の疑いで検挙、取調べを行って安井候補の違反の裏付けを行ったところ確証を得たので、十日夜東京地検に安井氏の逮捕状と家宅捜索の令状を請求、十一日朝七時警視庁選挙対策取締本部と協力、世田谷区若林町一七〇安井大吉氏自宅、渋谷区千駄ヶ谷四の六一七同留守宅、世田谷区経堂町五四世田谷区議同候補の出納責任者石綿兼太郎氏(六四)方の計三ヵ所を一斉手入れし、選挙関係の金銭帳簿など証拠書類多数を押収した、安井氏は不在のため一両日中に任意出頭するよう家人に連絡を依頼、出頭しない場合は全国に指名手配することになった

調べによると安井候補は本田、田丸、芳村、今里ら幹部運動員を通じて去月廿日から廿六日の間に目黒、世田谷方面の有権者に数百万円の現金をばらまき投票を依頼した疑いで、買収金額としてはいままで摘発されたなかでは最高額である

なお安井氏夫人光枝さんは「主人は四、五日まえから旅行して居所がわかりません」といっているが、同家の女中は「金沢方面にいるらしい」ともらし、食い違いがあるので、同署では光枝夫人を参考人として事情を聴取している

區議ら続々と検挙　底なし高木派の違反

衆院選挙東京四区落選候補高木章氏派の選挙違反を摘発中の代々木署では十一日朝渋谷区議春山力造(六七)＝渋谷区代々木西原町九七六＝を公選法違反の疑いで逮捕した

昨年暮ころ渋谷の有力者と高木氏宅に招かれもてなされて同候補の投票まとめ方を請負った疑い、また野方署でも同候補の経営する国際短期大学二年張山鉄雄(二五)＝練馬区豊玉中二の九九＝と同窗原進(二九)＝中野区江古田四の四六七七＝の二人をさらに杉並署でも同日朝杉並区井荻三の九二一建具職小室源太郎(五四)を同容疑で検挙した

千五百万円荒稼ぎ

高級車乗り回す窃盗団

板橋署では十一日朝までに最新型キャデラックを使って城北一帯を荒しまわっていた窃盗グループの一味練馬区小竹町二三九三無職大橋雄治(二二)板橋区上板橋三の九二運転手小栗健一(二二)渋谷区幡ヶ谷笹塚三三五九運転手南雲学(二二)豊島区池袋五の一七〇三工員最上健治(二四)板橋区上板橋三の五七運転手少年A(一九)同町五の六三一〇無職少年B(一八)同町五の三一六一無職少年C(一九)の七名を検挙、少年三名を指名手配、また板橋区上板橋一の三五一二運転手鈴木一三(二四)同人母ゆわ(六〇)の二人を贓物故買で検挙した

調べでは一味はポン仲間で三年前から南雲の家で知りあい、定職がないところから運転手の経験ある南雲と大橋が中心になって窃盗団を組織、昨年十一月廿日午前三時半ごろ板橋区板橋九の三三七〇洋服、家具商丸丹百貨店（経営者鈴木友義氏）にドライバーなどで戸をこじあけて侵入、オーバー、洋服類百五十八点（時価百五十四万三千円）を窃取したほか本年二月八日までに判明したものだけで十五件、五百八十万円を稼いでいた

盗品は架空の野田商会の名で鈴木親子を通じて信越方面に流し、金は遊興費にあてていたもの、一味は窃盗、見張り、運搬、販売などの係に分れ、借りたキャデラックを窃盗や盗品運搬に使っていたが同署では合計百数十件、千五百万円以上の被害あるものとみて追及している

水上署 隅田川の大捕物

五百トンの闇砂糖船

一味18名　横流し一歩前にご用



㊤荘以淳　㊥相良寿敬　㊦小林保夫

税関をごまかし輸出向け砂糖を国内に横流ししようとした一味を追及中の水上署では警視庁防犯課、東京税関と協力、さきに墨田区平川町一の三本所倉庫社員青木稔(三)ら四名を関税法違反の疑いで逮捕取調べていたが、さらに十一日までに一味の主犯中野区千光前町七小野方ハンガリヤ貿易株式会社社長荘以淳(三九)文京区上富士前町七二菓子商森合茂雄こと魏善秀(四〇)中野区江古田四の一六七八無職浅沼弘司(三二)川崎市浅田町二の五七無職元税関吏細川清策(三四)埼玉県南埼玉郡鷲宮町大字鷲宮一六四七無職安井誠一こと小林保夫(三〇)豊島区池袋三の一六四二酒井アパート内無職相良寿敬(四二)文京区根津須賀町七の二五稲舟方無職宗像康英(三四)渋谷区幡ヶ谷本町三の五一〇無職橋本博(三九)ら十四名を同容疑で検挙した

調べでは主犯の荘が昨年九月ごろ日本で加工されて輸出される砂糖を税関を通さず国内に横流しすれば輸出料金の二倍以上の巨利が得られることに目をつけ相良、小林らと共謀して国内の砂糖会社にワタリつけたが失敗本年一月初めごろ中央区日本橋江戸橋一の五安部幸株式会社（社長安部信治氏）を通じ港区西芝浦四の三芝浦精糖からグラニュー糖五百トン（時価八千五百万円）を横浜に停泊中のオランダ船ジメンテン号（六千トン）に船積みすると称し、一月廿九日早朝芝浦精糖桟橋からハシケ四隻に砂糖を積込み、横浜に停泊中のジメンテン号に向う途中盗難か行方不明になったように装い、墨田川をさかのぼって国内に横流ししようとしたところを水上署の警備艇に発見され一味の犯行がわかったもので、一味は蔵出し、海上輸送、陸上輸送、税関関係などと分担をきめ十八名の横流し団であり、京浜港始って以来の事件としてさらに追及中

ハンマーで殴る　世田谷に自動車強盗

十一日午前一時四十分ごろ世田谷区喜多見町二三二九先調布街道で、新宿区愛住町六相鉄タクシー運転手斎藤利勝さん(三三)は川崎市生田から世田谷区代田までの約束で乗せたいずれも廿二、三歳、五尺三寸くらい学生服にジャンパーを着た二人ずれの男にハンマー様のもので頭を殴られ全治二週間の傷を負わされた上タクシー代二百五十円を踏倒されたと成城署へ届出た





ときに激しい意見の対立も

皮はげば最中の仲

長門美保さん語る　夫　鈴木雄詞氏

僕のハッスル　―⑤―

◇…こゝ世田谷区代田駅前、大工さんが忙しそうに立回っている、新建築もあと一歩で完成というところ…「器は新しいが中味は十年のコケザルだよ…」と鈴木雄詞さんはおっしゃる、二人が結ばれたのは昭和十九年、B29がジャン〳〵空からお見舞？している時、交通公社で文化事業をしている鈴木さんと地方慰問巡業をしていた彼女との間にロマンスが芽生えて固く結ばれたわけ

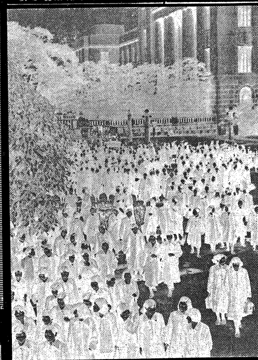
◇…「どこの地方公演でしたそれは…」と長門さんに水を向けると鈴木さんが横合から「美保にきいてもムダですよ、美保ときたら地理や方向感がゼロですからね、この間も富山と仙台を間違えるんだから嫌になっちゃう…」「あらァひどい、あなただってチンチン電車の方向は確かといえないワよ…」と美保さん負けずにやり込める、だがこの意見対立は表面でけで一皮はげばやっぱり夫婦の仲はモナカ（甘く密着）らしい

◇…「ボクと美保は趣味や食事もゼンゼン違うんですよ、例えば美保は四ッ足と魚が大嫌いコーヒーも味噌汁も嫌い、ナベ料理を注文するにしてもネギや春菊はイヤだというのでわざわざ二つ注文するんだ…でも感心なのは手紙は一切代書させずオペラの稽古が始まると夢中になってやり、すっかり暗符しないうちは出演しないという几帳面さ…弱るのは夜中になってガンガン歌ったり鏡の前で演技をしオペラの鬼に化けるから亭主たるもの気が変にならないのがおかしいですよ」讃めているのかけなしているのかわからない

今度の新築家屋はオペラとテレビの研究所をかねた七十五坪の堂々たるもので、汗と涙と借金の結晶ですよ、と語っていた、今まで借家住いだけだった夫妻にとって初めての楽しいホームでもあるのだ「ボクらが淋しいのは子宝に恵まれないことなんだ、お互のタネと畑は立派なのだが思うに"戦艦長門"の名を彼女が借りたのがわるかったかも知れんよー」というと美保さんは傍でギョロッと夫を睨み「子宝はなくともこの新装なったスタジオで次代の大歌手を産むからいいワよ…」と美保さんらしい負けぬ気性をみせていた

【写真は長門美保さん㊤と鈴木雄詞氏夫妻の円満ぶり】





春の先がけ修学旅行

ことしも修学旅行シーズンがやってきた、憧れの東京に着いた"制服の観光客"たちは、盛り沢山なスケジュールに朝早くから起されて観光バスに揺られはじめる「東京って朝と昼と晩じゃ全然感じが違うのね、朝のお濠端はほんとうに美しいわ」というのが中国地方から上京した彼女たちの東京の第一印象

だがすぐそばにある休会中の国会前で記念写真をとりながら「今度は乱闘や汚職はしないでしょうね」という声がさゝやかれていた

日本修学旅行協会の話によると、ことしはこれらのお客さんは二百五十万人前後に上るそうだが、その百%が国会見物するというから清純な"五百万の瞳"に失望はさせたくないもの

【写真は国会議事堂前に集る修学旅行の女学生たち】

斬りつけ強奪

十一日午前三時十分ごろ目黒区駒場町七三九タバコ商山内かつさん(六〇)方勝手口から廿四、五歳、五尺三寸ぐらい手拭いで覆面した職人風の賊が侵入、長女登代子さん(四〇)の顔に鎌ようのもので全治二週間の傷を負わせた上室内を物色現金四千円入り布製二ツ折財布を強奪逃走したと目黒署に届出た、同家は女世帯なので同署では内情を知ったものの犯行とみて捜査中

美容師パーマ液飲む

十日夜十時五十五分ごろ国鉄上野構内で栃木県那須郡大田原町一〇六美容師助手桜岡千代子さん(二二)は、パーマ液を飲み自殺をはかり、淡路病院に収容されたが一命はとりとめた、上野署の調べでは厭世らしい

東両国の火事

十一日朝六時五十分ごろ墨田区東両国四の七鏡製造販売業石井文吉さん方工場から出火、木造平屋工場一棟八坪を全焼して同七時十分ごろ鎮火した、本所署で原因調査中

印刷所焼く

十一日朝六時ごろ目黒区下目黒二の四二九星野印刷所（責任者星野嘉友さん）から出火、木造モルタル二階工場一棟と木造平屋住宅一棟七十坪を全焼、木造平屋住宅一棟五坪を半焼して同五十五分ごろ鎮火した、目黒署で原因を調べているが、この火災で同印刷所員遠藤力さん(一九)は左足に全治一週間の裂傷を負った

花月園競輪初日成績

◇第一B（千六百）❶早瀬満2分18秒2❷水野鉄1/2車身❸阿部信（単）300円（複）100円100円100円（連）❶―❺1050円
◇第二B（千六百）❶五十嵐2分17秒2❷石塚實1輪❸松崎昌（単）110円（複）100円110円130円（連）❺―❸330円
◇第三A（二千）❶大森明2分52秒5❷田代稼1/4車身❸日場裕（単）160円（複）100円160円100円（連）❻―❸330円

独眼灯

○…天気予報サービスで年間かるく四億円がとこ荒かせぎをやっている電々公社が、こんどは時報サービスを計画している
○…ダイヤルを回すとたえなる女の声で何時何分何秒をお知らせします"チーン"というしだい
○…これでまた何億円の増収と公社はソロバンに余念がないが、やなぎの下にいつもどじょうがいるかどうか

続 情炎の千代田城 (53)

岩崎栄　寺本忠雄画



好色城（九）

障子の内で絵島の声が鋭く、
「美登利！」
「は、はい」
「なにごとじゃ。はしたない」
「早く、あの、大変にござります」
「なにが、たいへんなのじゃ」
「上さまが」
「なんと？」

ガラリと障子が開いて、血相の変った絵島が、縁側にスックと立ちはだかった。なんとなき不吉な予感に衝き上げられたかたちに、
「上様には、何とあそばされたのじゃ」
「古池の、あの奥で一森の下にお倒れになられておいであそばします」

美登利の顔色も、まっさおになっている。
「案内しや」
裲襠をそこに刎ね脱ぐのと、踏み石の草履を突っかけて、小褄を取って駈け出すのとが同時のような慌て方だった。なにがなにやらトンと想像もつかないのだが、とにかく一刻を争う気持にかりたてられていた。

美登利は頭のさし物を振り落し、裾の色を蹴りはだけて必死に走る。絵島もいまは、大年寄の気位も、美女のたしなみも顧みてはいられなかった。

畑に転び、水を飛び渡り、いつか裸足になって、狂女のように駈け続けた。
「こ、こゝにござります」
「あッ」
森の下はもう、すっかり暮れている。その陰湿な朽ち葉の上を、将軍家は虫のように這い回っている。
「ごめん！」
というと、絵島はその将軍の両脇に手をさし込んで、力まかせに抱き起した。四肢をダラリと、気息えんえんの将軍だった。
「美登利！こゝに来て、こうしてお抱き申し上げていや」
美登利が代ると、絵島は前に回り、腰をおとして、うしろ手に「よいしょ」と背負い上げ「うん」と立ち上がった。
男でも、高貴な育ちでキャシャな体質の家宣は、それほどの体重でもなかった。
「美登利」
歩きながら、
「はい」
「あの菊のお茶屋へ、早く御典医を」

「かしこまりました。ごめん」
美登利は兎のように駈けぬけて行った。

一日の饗宴がピタリと、水を打たれたように鎮静した。日没とともに、いよいよますます妖怪な乱痴気騒ぎに移りかけていた花見の山里が、将軍家俄の御不快というお達しで、火が消えたような謹慎に沈み切った。
「御所労に あらせられた ところを、古池の妖気におあたりでござる」

お医師の診断であった。古池の妖気というのは、沼気の毒瓦斯とでもいうことなのであろうか。妖魔のような怪しい美女にたわむれて、毒気を吹きかけられたのだとは、誰一人知る由もなかった。

いや、知っているものが一人いる筈。それはその妖女を追っかけて行ったお静だ。

その夜が更けた。絵島は大奥の詰所に厳然と控えている。

家宣の容態は案じたほどでもなかった。薬湯が効いて、お熱も下がり、いまはスヤスヤと御寝なされているという報告だった。

（怪しい。昼間からの、あの魔女の所業に相違なし）

絵島は固く信じ、頼みにたのむお静の動静を案じわずらっているのだった。

渡辺・星野の爆弾ライン
強硬策に出た五社
重役クラスがじき〜出馬

昨年三月から映画界に吹きまくった日活旋風も昨今はようやくその鋭鋒をにぶらせ、松竹から小林トシ子引抜きの失敗をはじめ、田坂具隆監督第一回演出「女中ッ子」に久我美子「あした来る人」へ有馬稲子の出演も不調に終る始末である、一方新東宝は渡辺邦男、星野和平という強力ラインの出現で、日活に替る旋風を吹き起こす気配もみせ、また松竹、東宝も五社協定委員会に日活出演スターの追放を持ち出すという有様である、こうして一部には日活から五社へスターが逆流するのではないかという観測も行われ出しているが、はたしてこの映画界の合戦はどういうことになってゆくであろうか―



有馬稲子　星野所長　岸恵子　川島監督

…針づけにしようという狙いである

◎…これにともなって従来行われていた各スターへの出演交渉も最近ではプロデューサーまかせにせず、重役クラスがじき〜出馬するといった積極的な動きとなって現れている

その第一として「にんじんくらぶ」に対する交渉を目下、松竹から月森撮影所次長が連日に渡って行っているが、これによって久我美子（うるわしき歳月）有馬稲子（蜜月旅行、花と貝殻）を次々と決定し、その余勢をかって三月末で契約の切れるドル箱岸恵子の再契約にも成功しようと狙っている

また先ごろ小林トシ子が日活入りを伝えられながら二転、三転して結局松竹に留った裏には、高村撮影所長が木下恵介監督を動かして小林に松竹残留を決意させたものと伝えられている

◎…このように老舗として「去る者は追わず」とオットリかまえていた大松竹でさえかく動き出してきた現在、スターの手うすに悩む新東宝が渡辺、星野ラインで懸命なのは当然で、最近発表した十大作にも田中絹代、木暮実千代、香川京子（王将一代）有馬稲子（椎の実学園）津島恵子（緋牡丹記）などに上原謙、三益愛子、辰巳柳太郎、島田正吾、小林桂樹、花柳小菊、宮城千賀子といった華やかなライン・アップを組んでいるのが目立っている

また日活専属者にもその引抜きの手をのばしている模様で、星野撮影所長自ら川島雄三監督に交渉を開始しているといわれる

再燃するかスター引抜き戦

◎…東宝製作本部長森岩雄氏は「五社協定が各相互の契約を尊重しようという主旨で日活に加入を申入れた際〝契約を尊重するのは当然で、改めて協定を作る必要なし〟という回答があった、これは結構な話だが、実際には最近でも契約期間中のスターやスタッフが相次いで引抜かれる状態だ、これではわれわれも何らかの対策を講じなければならない」と語っている、こうした空気を反映してさきごろ行われた五社協定委員会では、日活出演スターを五社作品から締出そうという強い線も持出されたわけだが、これは現在のフリースター達をも五社側に…

逆に日活へ引抜きの手

◎…川島監督は目下新宿の某旅館に常宿中だが夜間十一時深更ともなれば、星野氏の常用車が連日横づけになると伝えられて話題となっている、その他監督陣も内田吐夢、マキノ雅弘、瑞穂春海、小石栄一、清水宏の五監督と新たに契約し、その線によるスター、すなわちマキノ監督の河津清三郎、森繁久弥、田中春男、はては内田監督による作品の魅力から長谷川一夫にも働きかけるといった状態で、このところ新東宝が日活にとってかわって引抜き騒動を巻き起している有様である

これについて日活側では企画首脳部も「いろいろ噂もあるようですが、別に日活としては何も正式にきいていないので…」と各種の問題を一笑にふしているが、日活の専属者が現状で満足していないという話もポツ〜表面化しているだけに、五社側もこの際昔日のウラミ、ツラミをはらしたいという動きも無理はないとみられている

◎…更に新東宝星野所長は「もし、スターを十分に五社間で交流して貰えないならば五社協定存在の価値がない」という意見を強力に主張しており、五社にしてみればこれも爆弾を懐中に抱いているようなものだという見方も行われ五社協定の存続にもあらためて大きな関心が注がれ出している、更には有馬稲子など契約更新をひかえているスターの間には、この際新東宝がひと暴れして協定の効力が薄れてゆくことをひそかに望んでいる動きもある

いずれにせよ当分の間は五社間でのスター交流は現状以上活発化することは予想されているが、はたしてこれが対日活への強力なクサビになるかどうか、五社協定を中心に映画界はふたたび荒れ模様を呈して来たわけである

世界最初の海底試写
RKO「海底の黄金」
潜水具と酸素ボンベで観覧



これはまた変った試み、世界で最初の海底試写会―二月下旬ジェーン・ラッセル主演のRKO作品「海底の黄金」が完成したが、封切に先立ってフロリダ半島南端の海底でその試写会が行われた、スクリーン、シートとも本物の水中に設けられ、観客は潜水具をつけてこれを観覧するという仕組みには、さすが物好きのアメリカッ子も、アッと度胆を抜かれたかたち、左側の立て札には「酸素ボンベのつめ替え代金一ドル也」と書いてあるが、この一ドルを忘れて見に来た客はあわてて水上にひきかえすという騒ぎ、上部の左隅に見えるのがスクリーンで、ラッセルの水着姿が写っている

ハリウッド譚　第四話

巨匠はなぜ怒る



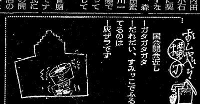
映画界の巨匠といわれ、演出の神様と称される河馬沢あきる先生は、けさも大きな鼻の穴を湯槽に浮かばせながら「朝寝、朝酒何とやら」の醍醐味にひたっていました、熱海の梅はもう満開ですし、窓ガラス越しの空はあくまで青く澄んでおります、だから先生のご機嫌も良い筈なんですが、何故かけさの先生は まことに斜なお天気模様です、おつきの女中さんもそれを知っていますから朝食のお膳を供えるとサッサと引下ってしまいました、先生がけさ起きた時は決してこんなに不機嫌ではなかったのですが、何もかも先生が嫌いな新聞のせいかもしれません、そういえば先生の寝床の隅には朝刊が四種類ばかりクシャクシャに丸めて投げ捨てられてありました、その一部分が見えます、ソーッと覗いてみましょう 特号活字です、これ なんです 先生が怒った原因は…「高胸尾出子婚約発表！」この記事が先生に低気圧のタネをまいたものとみえます

と いって先生と尾出子ちゃんが今さらどうだったということではないのです、それはもう十五年程昔のことなんですが、先生と彼女が恋人のようなことになった時代もあったということです、しかし残念ながらその頃の先生はまだ脚本出しなんです

小次郎先生の助監督時代で、彼女のオフクロさんに真向から結婚を反対されちゃったのです、そんなことで結局彼女とは結ばれなかったわけですが、今ではベニス大賞「シランプリ」も先生の大力作「乱闘門」で受賞し好敵手といわれる坂下伝介監督と共にわが映画界の大巨匠として一年に一本か二本の力作を製作するといったすこぶる恵まれた身分なのです、だから今度も一昨年から一年がかりで「七人の坊主」を完成し、次の作品をあゝでもない、こうでもないと練るために、この熱海くんだりまで来ているわけなんです、そこでこのニュースなんですから河馬沢先生がクサるのも無理はない話かもしれません、何故といえば尾出子ちゃんの婚約者は例の好敵手坂下監督の助監督ですし、それもまだセカンド級のいわば草履取りをやってる駈出しなんです

ザ ブーンと湯をやけくそにはねかして先生は湯槽から飛び出しました、対抗心が大きな先生の体にみなぎったようです、ガバッガバッと主のいなくなった湯槽が音を立てゝゆれています、「自動車を呼んでくれー」先生が叫びました、きっとねむっていた製作欲が、このニュースで猛然とふるいたったのでしょう、さあ洋服に着替えた先生が東京に帰ります、女中さんが勢揃いしてお見送りに立ちました、十二人の女中さんです、すなわち「二十三の瞳」なのです…「二十四の瞳」だろってが河馬沢先生を見送ったわけないゝえ一人の女中さんがモノモライで眼帯していたのですよ

おもいやり横丁



国会開会近し
―ガタガタガタ
―だれだい、すみッこでふるえてるのは
―灰ザラです

名選 都々逸　石井きんざ選

親の前でも炬燵は嬉し すまして手と手を握り合う　高崎・五十嵐源太郎
手管と気づかず良い気になって 毎日夜道を通う奴　北多摩・米島千代子
酔えば梯子で踊りがおそい 終車に間に合やよいけれど　葛飾・千代坊
ポンと火鉢へ煙管の音を 高く親爺のこわ意見　墨田・良坊



つぐ手がふるえるコップの水に 枕ぬらした日うつし　船橋・今井ちさと

◇

七十五日をたつたが消えず 噂している人がいる　選者

はと笛



▽…先立って自殺未遂事件とやらでちょっと世間を騒がせた松竹大船撮影所宣伝課員関口俊秋君は〝まどかグループ〟の総帥佐野周二の実弟だが、世間様同様神経衰弱とでもカン違いした佐野やん、カン〜になり「そんなヤツ義絶だッ」とイキまいて弟の許へかけつけたところ…▽…真相は全然の笑い話で、熟睡しようと飲れない睡眠薬を飲むことにしたが「オレは普段コーヒーをがぶ飲みしているし、普通量では駄目だろうな…」とツイ少々余計に服用したところ、これが利きすぎて救急車出動の騒ぎとなったもの、本人はケロリとして「こりゃ一体何ごとですか」と逆に質問する有様なので、〝義絶〟もどこへやら、佐野やんもこのとんだ茶番には胸をなで下ろすやら、苦笑いするやら【写真は佐野周二】

催し　吉城弘油絵展 十二日まで銀座西五丁目フオルムで
個展を開催

移転　エト邦枝（テイチク歌手）新宿区戸塚町四の五十二へ

内外映画演劇案内

